

ServerView Suite ServerView Operations Manager V5.0

Installation ServerView Agents for Windows

Installation ServerView Agents (Windows2003/2008)

Installation ServerView Update Agent

製品名称の表記

本書では、本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 Foundation Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Standard Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Premium	Windows Server 2008	Windows
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation Microsoft® Windows® Web Server 2008 R2	Windows Server 2008 R2	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft® Windows® Small Business Server 2003	Windows Server 2003	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 x64	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2 Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2 x64 または Windows Server 2003 R2	

製品名称	本文中の表記	
Red Hat Enterprise Linux 5	Red Hat Linux	Linux
	RHEL5	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4)	RHEL4	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4)		
SUSE Linux Enterprise Server 11	SuSE Linux	
	SuSE Linux SLES11 または SLES11	
SUSE Linux Enterprise Server 10	SuSE Linux SLES10 または SLES10	
VMware ESX 4	ESX4	VMware
VMware ESX 3.5	ESX3.5	

著作権および商標

Copyright © 2010 Fujitsu Technology Solutions GmbH.

All rights reserved

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

BrightStor、ARCserve は、CA, Inc の登録商標です。

VMware、VMware ロゴ、VMware ESXi、VMware SMP および VMotion は VMware, Inc の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

目次

1	はじめに	7
1.1	アーキテクチャー	8
1.2	本マニュアルの対象者および目的	9
1.3	技術的要件	9
1.3.1	管理コンソール	9
1.3.2	中央管理用サーバ (CMS)	10
1.3.3	ServerView エージェント	12
1.4	旧版からの変更点	13
1.5	ServerView Suite のマニュアル	13
1.6	本書の表記	14
2	監視対象サーバへのインストール	15
2.1	BIOS とファームウェアの設定	17
2.1.1	BIOS 設定	17
2.2	サーバの設定	20
2.2.1	Server Configuration Manager からのサーバの設定	22
2.2.2	Windows スタートメニューからのサーバの設定	24
2.2.3	ServerView Configuration Manager からのサーバの設定	26
2.2.4	機能の概要	29
2.3	ServerView セキュリティコンセプト	31
2.3.1	特定の SET 操作の禁止	31
2.3.2	すべての SET 操作の禁止	32
2.3.3	ユーザ認証を使った SET 操作	32
2.3.4	SNMP エージェントの OS 固有な特徴	36
2.4	SNMP サービスの設定	37
2.4.1	Windows Server 2003 / Windows Server 2008	39
2.4.2	Server Core インストール環境の場合	41
3	ServerView エージェントのインストール	43
3.1	Windows 2003/2008	43

3.1.1	エージェントのインストールおよび設定	43
3.1.2	RAID の設定	60
3.1.3	APC および Masterguard UPS の設定	61
3.2	Windows 2003 / 2008 x64 エージェント	65
3.3	コマンドラインを使用したインストール	66
3.4	インストール後の設定	72
3.4.1	管理者ユーザの設定	72
3.5	ServerView Update Agent のインストール	75
3.5.1	要件	75
3.5.2	インストール	75
3.5.3	コマンドラインインターフェースを使用したインストール	77
3.6	アンインストール	78
3.6.1	Windows Server 2008	79
3.6.2	Windows Server 2003	79
索引	81

1 はじめに

ServerView Suite では、サーバ管理ソフトウェア **ServerView Operations Manager**（以下 **Operations Manager**）を使用してサーバを集中管理します。

Operations Manager では、イントラネットやインターネットを使用し、監視対象サーバのデータにアクセスします。イントラネットまたはインターネットアクセスにより、一般的な **PC** の **Web** ブラウザから監視対象サーバ内のすべてのデータを確認できます。

Operations Manager は、ハードディスクドライブ、ファン、電源や温度といった重要なサーバ機能を監視します。パラメータで指定した値を超えたりエラーが発生した場合は、メッセージが出力され、必要に応じて対処を行います。

Operations Manager は 2 つの要素から編成されています。「**ServerView Operations Manager**」は管理端末にインストールされます。「**ServerView エージェント**」は監視対象サーバでマネージャとの情報交換に使用します。

情報交換には、共通情報ベースがマネージャとエージェントに提供されている必要があります。この共通情報ベースは「管理情報ベース（**MIB**）」と呼ばれます。**MIB** は管理されるエレメントを抽象的に説明するデータモデルです。

ネットワーク上の各エージェントは **MIB** を提供します。ネットワーク上でエージェントから提供された **MIB** 記述ファイルはすべて管理端末で利用できます。これにより、マネージャとエージェント間の情報が正しく確実に読み取られます。

1.1 アーキテクチャー

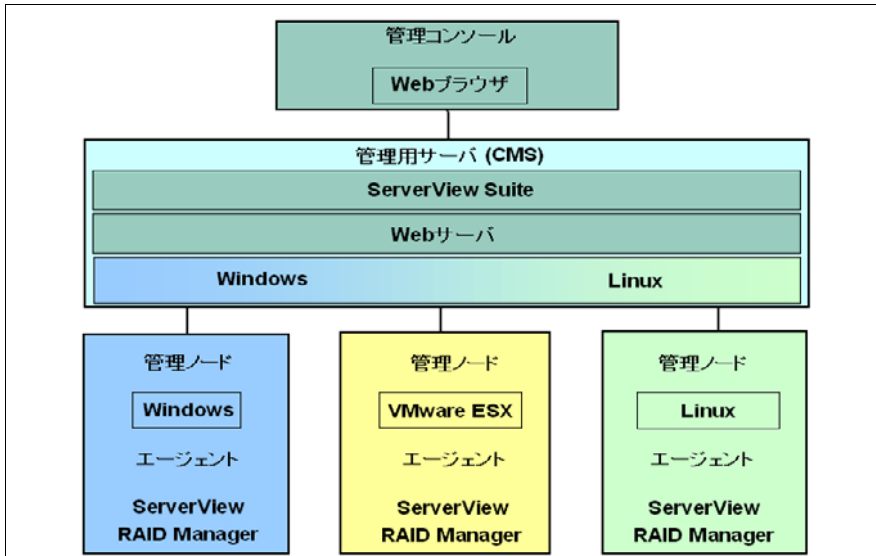


図 1: アーキテクチャーの概要

管理コンソール

監視対象サーバの全データは、標準的な PC の **Web ブラウザ** から、イントラネットまたはインターネットアクセスを使用して確認できます。

集中管理用サーバ (CMS)

ServerView Operations Manager は集中管理用サーバにインストールされています。

管理ノード

監視対象サーバに **ServerView** エージェントがインストールされています。エージェントは集中管理用サーバに情報を提供します。**ServerView RAID Manager** をオプションで監視対象サーバにインストールできます。

1.2 本マニュアルの対象者および目的

本マニュアルは、ハードウェアおよびソフトウェアについての十分な専門知識をお持ちのシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。本マニュアルでは、ServerView Windows エージェントのインストール、および ServerView Windows エージェントのアップデートインストールについて記載しています。

1.3 技術的要件



技術的要件の最終段階での変更や修正は、ServerView Suite DVD 1 に収録されている **Readme** ファイルに記載されています。このファイルを参照するには、次の 2 つの方法があります。

- DVD 1 で、次のディレクトリに切り替えます。SVSSoftware - Software - ServerView - Windows - ServerView_S2
- DVD 1 を起動し、「Welcome」ダイアログで次の順に選択します。ServerView Software Products - Start; Info under ServerView - Operations Manager

1.3.1 管理コンソール

- http にアクセスできる標準的な PC/LAN
- Internet Explorer V7/V8 がインストールされている Microsoft Windows
- Mozilla Firefox 3.5/3.6 がインストールされている RedHat Linux
- Mozilla Firefox 3.5/3.6 がインストールされている SuSE Linux
- Java Runtime Environment V1.6.0_21

1.3.2 中央管理用サーバ (CMS)

ハードウェア (推奨値)

- PRIMERGY サーバ
- プロセッサのコア数 : 2 以上
- メモリ : 4GB 以上
- 空きディスク容量 : 100 GB 以上
- ディスプレイ : 1280x1024
- LAN : 100MBit-LAN

ソフトウェア

- Windows
 - Microsoft Windows® Server™ 2003 の全エディション
 - Microsoft Windows® Server™ 2003 R2 の全エディション
 - Microsoft Windows® Server™ 2008 の全エディション
 - Microsoft Windows® Server™ 2008 R2 の全エディション
- Linux
 - Novell SLES 10 (未サポート)
 - Novell SLES 11 (未サポート)
 - Red Hat RHEL 5

SQL サーバ

- Windows

- Windows 下でローカル :

ServerView パッケージに付属 :

- Windows 2003 の場合 : MSDE SP4
- Windows 2008 の場合 : SQL 2005 Express SP3

その他のサポート対象 :

- SQL Server 2000 Standard、Workgroup、Enterprise (それぞれ SP4)
- SQL Server 2005 Standard、Workgroup、Enterprise
- SQL Server 2008 Standard、Workgroup、Enterprise
- Windows 下でリモート :
- SQL Server 2005 Standard、Workgroup、Enterprise
- SQL Server 2008 Standard、Workgroup、Enterprise

- Linux (ローカルとリモート)

- PostgreSQL 8.4.3 (ServerView パッケージに付属)

Java Runtime Environment

- JRE V1.6.0_18 (ただし、最新版を使用することを推奨)

1.3.3 ServerView エージェント

次で利用できる ServerView エージェントがインストールされていること

- Windows Server 2003
- Windows Server 2003 x64
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 x64
- Windows Server 2008 R2
- SuSE Linux SLES 10 および 11 (未サポート)
- Red Hat Enterprise Linux 5
- V5.0 の Citrix XenServer
- V4 および V4.1 VMware ESX Server



バージョン 4.0 の VMware ESXi Server を監視できます。詳細は、『VMware ESXi - Monitoring ESXi Systems with ServerView Suite』マニュアルを参照してください。

1.4 旧版からの変更点

本版のマニュアルは **ServerView Operations Manager v5.0 - Installation ServerView Agents for Windows** に適用されるもので、オンラインマニュアル『**ServerView Operations Manager v4.92 - Installation ServerView Agents for Windows**』（2010 年 2 月版）の更新版です。

このマニュアルでは、以下の変更と拡張について主に説明します。

- インストールプログラムの起動後、インストール言語を選択できます。
[Abschnitt "Windows 2003/2008" auf Seite 41](#) の項を参照してください。
- **ServerView** エージェントをエキスパートモードでインストールしながら、以下のツールもインストールできます。
 - **ServerView System Monitor**
システムの監視に使用します。このツールについては、『**ServerView System Monitor**』ユーザガイドに記載されています。
 - **Virtualization Management Agent**
仮想マシン（Xen、Hyper-V、VMWare）のパフォーマンスデータを提供します。

インストールウィザードの「カスタムセットアップ」ウィンドウで機能を選択します。

- コマンドラインインターフェースを使用したインストールの場合は、**MSIEXEC** はサポートされなくなりました。
エージェントは、**Setup.exe** を呼び出すことによりインストールされます。**/w** オプションは、サポートされなくなりました。

1.5 ServerView Suite のマニュアル

ServerView Suite のマニュアルは、各サーバシステムに付属の **ServerView Suite DVD 2** に収録されています。

マニュアルはインターネットからも無料でダウンロードできます。インターネットのオンラインドキュメントは、<http://manuals.ts.fujitsu.com> の「**Industry standard servers**」リンクをクリックすると入手できます。

1.6 本書の表記

本マニュアルでは、次の表記が使用されます。




	注意 この記号は、人的傷害、データ消失、機材破損の危険性を示しています。
	この記号は、重要な情報やヒントを強調しています。
	この記号は、操作を続行するために行わなければならない手順を示しています。
斜体	コマンド、ファイル名、およびパス名は 斜体 で表記されています。
固定フォント	システム出力は、固定フォントで表記されています。
太字の固定フォント	キーボードから入力する必要があるコマンドは、太字の固定フォントで表記されています。
<abc>	山カッコは実数値に置き換えられる変数を囲っています。
Key symbols	<p>キーは、キーボード上の該当するキーを表しています。また大文字を入力する必要がある場合は、シフトキーも表示されています。</p> <p>例：大文字 A の場合、[SHIFT] - [A]</p> <p>2 つのキーを同時に押す必要がある場合は、それぞれのキー記号の間にハイフンが表示されています。</p>

表 1: 本書の表記

マニュアル内の本文や項を参照する場合は、章や項の見出しを参照先として示し、その章や項が始まるページを記載しています。

画面出力

画面出力は、使用するシステムによってある程度異なります。そのため、お使用のシステムで表示される出力は、本マニュアルの記載と若干異なる可能性があります。また、利用できるメニュー項目もシステムによって異なる場合があります。

2 監視対象サーバへのインストール

Operations Manager を起動する前に、監視対象サーバで次の準備を必ず行ってください。

- 各監視対象サーバで BIOS の設定を行ってください。設定方法については、[20 ページ](#) の「サーバの設定」の項をご覧ください。
- ServerView は最新のセキュリティコンセプトを提供します。エージェントをインストールする前に、セキュリティコンセプトの十分な確認と最適な選択を行ってください。エージェントをインストールする前に準備が必要な場合があります。インストール前の準備については、[31 ページ](#) の「ServerView セキュリティコンセプト」の項をご覧ください。
- 各監視対象サーバおよび管理端末で使用している OS の SNMP サービスをインストールして設定してください。管理端末からサーバを監視するために必要です。また、SNMP サービスを必ず有効に設定してください。OS により、エージェントのインストール前、またはインストール後に行います。設定方法については [37 ページ](#) の「SNMP サービスの設定」の項をご覧ください。
- 各監視対象サーバにエージェントをインストールしてください。インストールについては、[43 ページ](#) の「ServerView エージェントのインストール」の章をご覧ください。



RXI サーバには専用の ServerView エージェントが必要です。別途 IA 64 ServerSupport CD に格納されています。

- ServerView Update Manager を使用する場合は、監視対象サーバへの ServerView Update Agent のインストールが必要となります。インストール方法は、[75 ページ](#) の「ServerView Update Agent のインストール」の項をご覧ください。
- 中央管理用サーバで ServerView Operations Manager を、IP アドレスではなく名前を使用してアクセスするように設定する場合、このアドレスを使用して監視対象サーバからアクセスできるか確認してください。この場合、できれば DNS で適切な入力を行います。DNS を使用できない場合は、適切な入力を監視対象サーバで hosts ファイルに行ってください。
Windows システムの場合、このファイルは
`%WINDIR%\system32\drivers\etc` ディレクトリにあります。

監視対象サーバでの追加インストール

- **ServerView オンライン診断**

ServerView Windows エージェント（バージョン **4.40.04** 現在）のインストール中に、オンライン診断もインストールされます。オンライン診断を使って、監視対象サーバ上で一連のハードウェアテストをリモートワークステーションから実行できます。

- **ServerView RAID Manager**

ServerView RAID Manager は、サーバのハードディスクを一元管理、運用できます。

ServerView RAID Manager がインストールされていないと、RAID ドライブおよびそのステータスに関する情報は入手できません。

インストールについては **ServerView RAID Manager** マニュアルをご覧ください。

- **ServerView Windows** エージェントを **Expert** モードでインストールする場合、**Asset CLI**、設定ツール、および **PrimeCollect** を含む追加コンポーネントをインストールするか選択できます。

ServerView System Monitor では、サーバでローカルにサーバ情報のモニタとチェックを行うことができます。詳細は、『**ServerView System Monitor**』ユーザーガイドを参照してください。

2.1 BIOS とファームウェアの設定

PRIMERGY では、機種ごとに使用するメインボードが異なり、それによって BIOS のバージョンも異なるため、BIOS 設定の個々の設定項目や手順の詳細については、ここでは説明しません。

i 各バージョンの BIOS の詳細は、対応する「BIOS Setup」マニュアルまたはメインボードの技術情報マニュアルをご覧ください。

i サーバの起動後、必ず BIOS セットアップで「O/S Boot Timeout」の値を「Disabled」に設定してください。これを行わないと、インストール中にシステムがリブートします。すべてのインストール (ServerView エージェントを含む) が終了後、「O/S Boot Timeout」の値を「Enabled」に戻してください。

2.1.1 BIOS 設定

サーバ管理ファームウェアは、OS が起動するまでの間、サーバを監視します。その後、エージェントと Operations Manager プログラムに、サーバ監視を引き継ぎます。

BIOS 設定はすべてのサーバで変更する必要があります。

BIOS セットアップを起動するには、コンピュータをリブートし、適切なタイミングで **F2** または **DEL** キーを押します。

BIOS セットアップが起動したら、「Server」メニューを選択し、サーバ管理に必要な設定を行います。

i BIOS セットアップで「Server」メニューが表示されない場合は、サーバ管理機能を有効化する必要はありません。ただし、その場合は、個々のサーバ管理機能を明確に制御することはできませんので、ご注意ください。

「Server」メニューの「Server Management」を選択し、値を「Enabled」に設定します。これにより、サーバ管理機能が有効化されます。以降のすべての設定を有効にするために、必ずここで「Enabled」を選択してください。

「Server Management」メニューが選択できない場合、個々の機能の制御は全体的な設定に従います。

「Server」メニューでは次の項目を設定できます。

i ハードウェアによっては、いくつかの項目が設定できない場合もあります。

O/S Boot Timeout

システム起動後、設定した時間が経過しても OS がサーバ管理ファームウェアと接続を確立できなかった場合に、システムをリブートするかどうかを設定します。時間間隔は、Operations Manager 経由でも設定できます (Operations Manager User Guide の「SR&R (Automatic Server Reconfiguration & Restart)」の項をご覧ください)。



サーバ起動時

サーバ起動時は、本項目「O/S Boot Timeout」の値を必ず「Disabled」に設定してください。これを行わないと、インストール中にシステムがリブートします。

Action

ブートウォッチドッグのタイムアウト後に行うアクションを設定します。

Timeout Value

「O/S Boot Timeout」が有効な場合に、リブートを行うまでのタイムアウト時間を設定します。

ASR&R Boot Delay

高負荷による加熱などのエラーによりシャットダウンした後、自動的にリブートするまでの待ち時間を設定します。

Boot Retry Counter

完全にシャットダウンする、または、RemoteView を起動する前に、OS の再起動を試みる回数を設定します。

Diagnostic System

システム再起動の試行回数が「Boot Retry Counter」で設定した回数に達したときに、RemoteView を起動するかどうかを設定します。

Hardware Watchdog

サーバ管理 BIOS が、一定の周期でハードウェアカウンタをリセットできない場合に、サーバをリブートするかどうかを設定します。

Next Boot uses

次回ブート時に RemoteView を起動するかどうかを設定します。

Temperature Monitoring

温度が限界値を超えたときにシステムをシャットダウンするかどうかを設定します。

Memory Scrubbing

メモリをテストしてシングルビットエラーを排除するかどうかを設定します。

BIOS Runtime Logging

プロセッサ、メモリおよび PCI のエラーをログファイルに保存するかどうかを設定します。

CPU Status

CPU を使用するかどうかを設定します。

Memory Status

不具合が検出されたメモリモジュールを特定できるようにします。特定されたモジュールは、次回起動以降は使用されません。

Console Redirection

システム上のターミナルの操作方法を設定します。

RomPilot

RomPilot の設定を行います。RomPilot は ServerView Remote Management および Operations Manager の一部です。RomPilot を使うと、リモートコンソールから LAN 経由でシステム起動フェーズ (POST) や MS-DOS にアクセスできます。

Storage Extension

グループ構成と通信バス (CAN bus) の設定を行います。(注意 : サーバによっては、本項目「Storage Extension」が無効の場合もあります。)

2.2 サーバの設定

サーバを設定するために様々な機能を利用できます。これら機能のいくつかは **PRIMERGY** サーバに対応していますが、特定のサーバのみ対応している機能もあります。これは **PRIMERGY** サーバにインストールされているハードウェアおよびソフトウェアに依存します。

次の方法のいずれかを使ってサーバを設定できます。

- **Server Configuration Manager** から、監視対象サーバのローカル上で設定する。
- **Windows** ベースの監視対象サーバのローカル上でスタートメニューから設定する。



Windows 用 **ServerView** エージェントがインストールされているサーバのみ設定できます。

- **Operations Manager** のグラフィカルユーザインタフェースに統合されている **ServerView Configuration Manager** から設定する。



ServerView エージェントがインストールされているサーバのみ設定できます。

システムによっては、構成設定は **BIOS** に書き込まれます。

次のことが行えます。

- サーバ、メインボード、および統合管理コントローラの最も重要なデータを読み込みます。
- サーバのエラーログおよびイベントログを読み込み、削除します。
- メモリモジュールのエラーカウンタを読み込み、編集します。
- システムファンを監視し、調整します。
- ブートおよびソフトウェアウォッチドッグの設定を読み込み、設定します。
- 筐体 ID(出荷時にプリセット)を読み込み、設定します。
- システムランタイムのカウンタを読み込み、設定します。
- ポケットベルオペレーションのパラメータを読み込み、設定します。
- **VT100** オペレーションのパラメータを読み込み、設定します。
- メモリサブシステムのバスインタフェースを設定します。
- アラームハンドラを設定します。

- HTTP と Telnet の設定、および HTTP の Remote Management Controller の設定を構成します。
- RSB Web インタフェースの IP アドレスと DNS の設定を構成します。
- Remote Management Controller の SNMP インタフェース用の SNMP コミュニティおよびトラップターゲットを設定します。
- Remote Management Controller のユーザ ID を管理します。
- RSB および Remote Management Controller の、シリアルインタフェースを設定します。
- Operations Manager UPS 管理の統合を設定します。
- ServerView Local Service Display の画面に表示する情報を設定します。

2.2.1 Server Configuration Manager からのサーバの設定

Server Configuration Manager を使用して、ターゲットシステムの全般システム動作を設定できます。またターゲットシステムのリモート管理コンポーネント（iRMC または iRMC S2）を設定できます。



詳細は、Installation Manager マニュアルをご覧ください。

ServerView Suite DVD 1 から起動した ServerView Installation Manager 経由で、Server Configuration Manager を開始します。

- ▶ Installation Manager のようこそ画面で、「Maintenance」ボタン、またはメニューバーの「メンテナンス」をクリックします。

「ServerView Installation Manager メンテナンス」画面が表示されます。

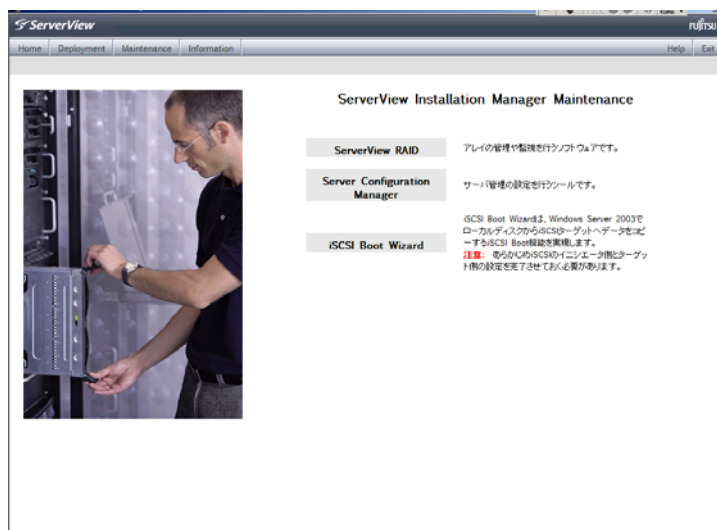


図 2: 「ServerView Installation Manager メンテナンス」画面

- ▶ 「Server Configuration Manager」を選択します。次の画面が表示されます。

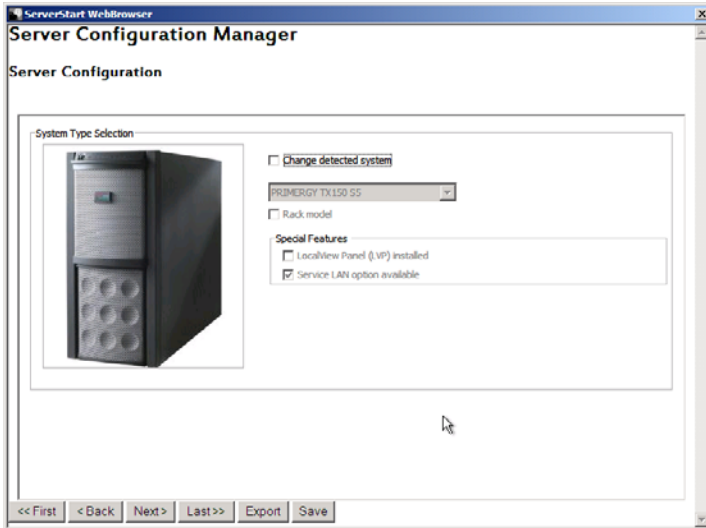


図 3: Server Configuration Manager

画面の詳細については、ServerView Installation Manager のマニュアルおよび、iRMC や iRMC S2 のマニュアル (iRMC 固有の構成ステップの項) をご覧ください。

2.2.2 Windows スタートメニューからのサーバの設定

Windows ベースのサーバでは、Windows スタートメニューから設定を起動できます。

次の操作を行います。

- ▶ 監視対象サーバで、「スタート」→「すべてのプログラム」→「Fujitsu」→「ServerView Suite」→「Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順に選択します。

「システム設定」画面が表示されます。



図 4: 「システム設定」画面

- ▶ 規定値を承認します。
- ▶ 「OK」ボタンをクリックします。

「システム設定」画面が表示されます。

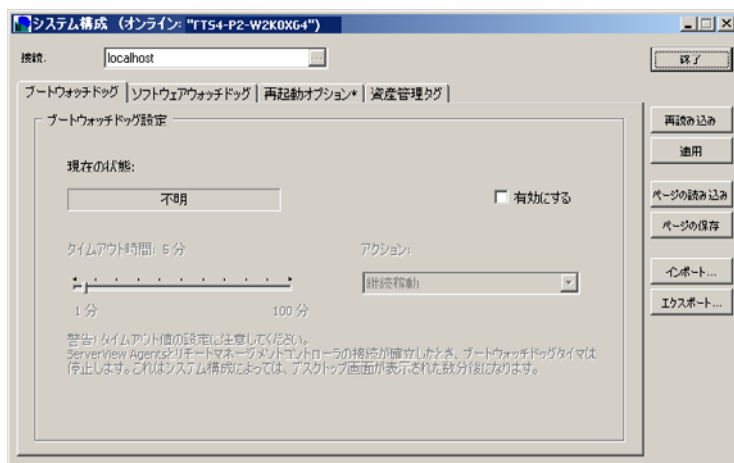


図 5: 「システム設定」画面

タブの隣にある矢印をクリックして、左右にタブ間をスクロールできます。

提供される機能の概要については、[29 ページ](#) の「[機能の概要](#)」の項をご覧ください。

2.2.3 ServerView Configuration Manager からのサーバの設定

Operations Manager のグラフィカルユーザインタフェースに統合されている ServerView Configuration Manager からサーバを設定できます。ServerView Configuration Manager を使うと、Web インタフェースを介してリモートワークステーションからサーバを設定できます。

以下の操作を行います。

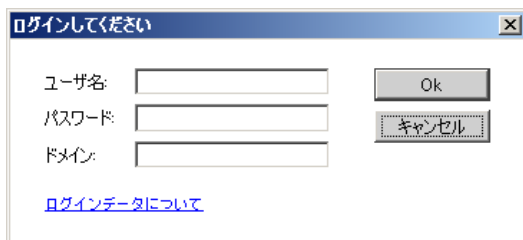
- ▶ Operations Manager スタートページ、またはメニューバーから「管理者設定」→「サーバの設定」の順に選択して起動します。Operations Manager の起動方法は、ServerView Operations Manager のマニュアルをご覧ください。

次の画面が表示されます。



図 6: Operations Manager: 「サーバ設定」画面 - サーバリスト (1) タブ

- ▶ 「サーバリスト」タブのツリー表示から、設定するサーバを選択します。
ユーザ ID / パスワードが認証された場合のみ **SET** 操作が許可されるようエージェントを設定した場合は、次の画面が表示されます。



- ▶ ユーザ ID を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。



図 7: Operations Manager: 「サーバ設定」画面 - サーバリスト (2) タブ

2 監視対象サーバへのインストール

- ▶ 選択したサーバの詳細を指定します。「次へ」ボタンをクリックし、エントリを決定します。

「設定」タブが有効になった画面が表示されます。

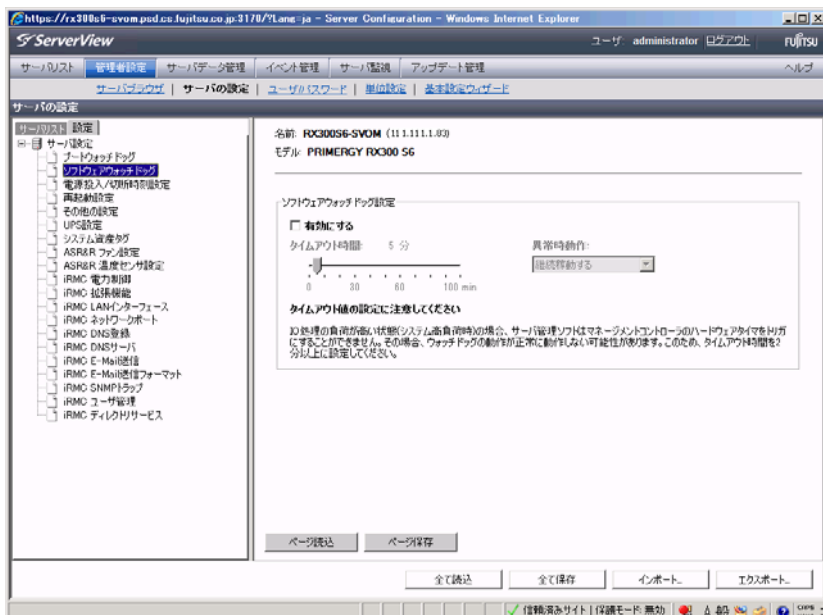


図 8: Operations Manager: 「サーバ設定」画面 - 設定タブ

- ▶ 「設定」タブのナビゲーションエリアで、必要な機能をクリックします。画面の右側にオプションが表示されます。
- ▶ 必要な設定を行い、「ページ保存」ボタン、または「全て保存」ボタンをクリックして保存します。

i 機能ごとやサーバごとに構成した設定を個別に有効にする場合は「ページ保存」、すべての設定を完了して有効にする場合は、「全て保存」を選択します。

i 1 台のサーバの設定が終了したら、「サーバリスト」タブで別のサーバを選択して設定できます。

機能の概要については、29 ページ の「機能の概要」の項をご覧ください。

2.2.4 機能の概要

以下の表では、一般的な機能についてのみ説明します。

iRMC/iRMC S2 の構成については、次の **ServerView Suite** マニュアルをご覧ください。

- iRMC - integrated Remote Management Controller
- iRMC S2 - integrated Remote Management Controller

利用可能な機能のサブセットは、サーバによって異なります。

ブートウォッチドッグ	ブートウォッチドッグは OS の起動を監視します。指定した時間内に OS が起動しない場合、指定時間を超えた時点でブートウォッチドッグは設定された動作を実行します。
ソフトウェアウォッチドッグ	ソフトウェアウォッチドッグは OS の動作を監視します。指定した時間内に OS が応答しない場合、指定時間を超えた時点でソフトウェアウォッチドッグは設定された動作を実行します。
電源投入 / 切断時刻設定	システムの電源投入 / 切断時刻を設定します。日ごとに任意の時刻を設定できます。
電源監視	電源監視を有効にします。電源監視のパラメータや、監視のタイミングを設定できます。
UPS 設定	Operations Manager が UPS の SNMP エージェントとの通信を行うために必要な情報（サーバやネットワークマネジメントカードの IP アドレス）を設定します。 UPS の追加 / 削除、システムユニットへの割り当ても行えます。
その他の設定	毎日のファンテストの開始時刻を設定します。
アラーム設定	自由に設定できる 15 種類のアラームハンドラの概要が表示されます。これらのアラームハンドラの編集や削除を行えます。

表 2: 機能の概要

LCD パネル	システム情報を選択し、 ServerView Local Service Display でどのように表示するかを設定できます。「LCD パネル」では、サーバのローカル LCD の表示を設定できます。表示可能なページ数および 1 ページあたりの行数は、機種により異なります。各行は最大 20 文字まで入力可能です。
---------	---

表 2: 機能の概要

2.3 ServerView セキュリティコンセプト

ServerView SNMP エージェントは、ServerView Manager とともに、完全なセキュリティコンセプトを提供し、サーバ上での無許可な **SNMP SET** 操作を阻止します。

監視対象サーバ上での **SNMP SET** 操作へのアクセスを制限できます。ここで使用できるオプションは次のとおりです。

- 特定の **SET** 操作の禁止
- すべての **SET** 操作の禁止
- ユーザ認証を使った **SET** 操作の保護

ユーザ認証オプションを選択した場合、毎回 **SET** 操作を開始する際にシステムは、ユーザ認証を実行します。認証が正常に完了した場合、システムは管理者によって定義されたユーザグループにそのユーザが所属するかを確認します。



ユーザ認証は **ServerView Manager** でのみ稼動します。その他の **SNMP** ツールでは動作しません。

SNMP サービスのデフォルト設定を変更することで、無許可なアクセスの危険性を抑えられます。詳しくは、[37 ページ](#) の「**SNMP サービスの設定**」の項をご覧ください。


2.3.1 特定の SET 操作の禁止

SET 操作にはシステムをシャットダウンしたり再起動するものがあります。これら特別な **SET** 操作を許可、または禁止できます。

これら **SET** 操作を禁止するためにインストール中に行わなければならない特定の入力、**ServerView** エージェントがインストールされている **OS** および **ServerView** エージェントのバージョンに依存します。詳しくは、[37 ページ](#) の「**SNMP サービスの設定**」の項をご覧ください。

2.3.2 すべての SET 操作の禁止

ServerView エージェントの SET 操作をすべて禁止します。これら指定事項をエージェントインストール中に入力します。



このオプションは **ServerView** エージェントにのみ適用されます。他の **SNMP** エージェントに対する **SET** 操作には影響しません。

これら **SET** 操作を禁止するためにインストール中に行わなければならない特定のは、**ServerView** エージェントのバージョンに依存します。詳しくは、[37 ページ](#) の「**SNMP サービスの設定**」の項をご覧ください。

2.3.3 ユーザ認証を使った SET 操作

ユーザ認証により、**SET** 操作へのアクセスを制限し、**SET** 操作の実行を保護できます。ここでは、各セッションのはじめにユーザ認証を監視対象サーバで開始するか、または新規 **SET** 操作を開始するときにユーザ認証を行うか、どちらかを選べます。

ユーザ認証に対して、監視対象サーバおよび管理用サーバ／パソコンで次の設定を行ってください。

エンティティ	設定
監視対象サーバ	<div><div>– ユーザおよびユーザグループを定義する</div><div>– 特定のユーザグループへユーザを割り当てる</div><div>– エージェントインストール中に、特定のユーザグループを設定する</div></div>
管理用サーバ／パソコン	「 Operations Manager のログイン」タブでユーザを指定する

ユーザおよびユーザグループの定義

それぞれの監視対象サーバでユーザおよびユーザグループを定義してください。使用している OS により操作が異なります。ユーザまたはユーザグループは任意の名前でかまいません（「Administrator」を含む）。

同じユーザおよびグループ ID を、複数のサーバに対して作成するかどうかをあらかじめ決めてください。

例

新規ユーザを作成します。以下はユーザ「SVUSER」を作成した場合です。

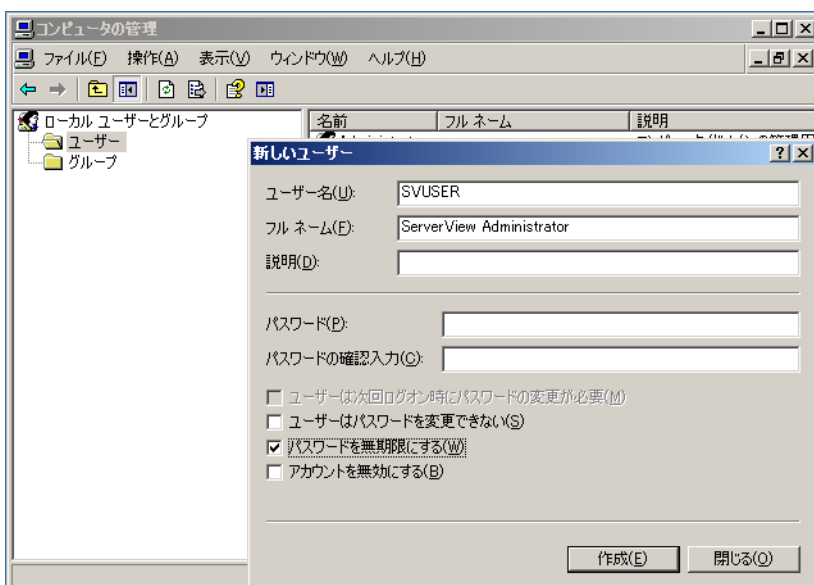


図 9: 新規ユーザの作成

エージェントをインストール中に、このユーザにユーザグループを割り当ててください。

2 監視対象サーバへのインストール

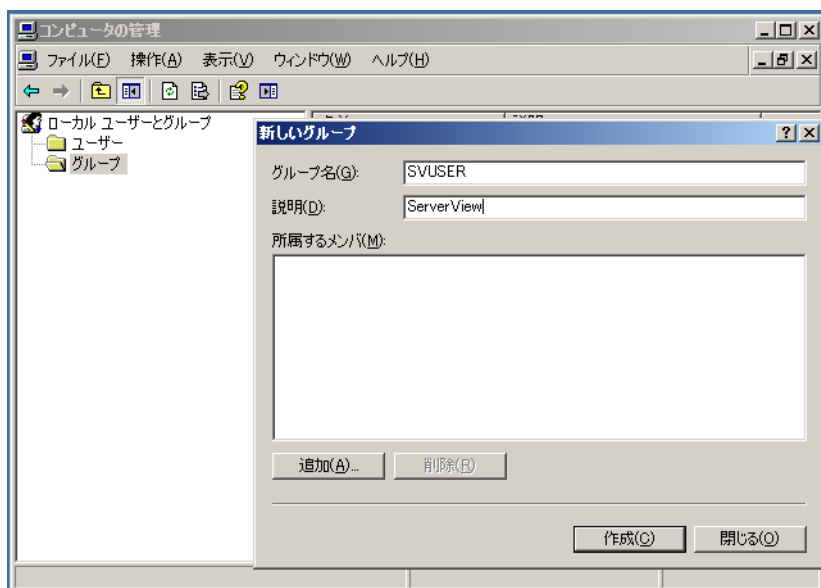


図 10: 新規ユーザグループの作成

この例では、ユーザグループ「SVUSER」が作成されます。監視対象サーバで SET 操作の実行を許可されているユーザをこのグループに割り当ててください。この場合、ユーザ「SVUSER」をユーザグループ「SVUSER」に割り当ててください。

エージェントインストール中のユーザグループの特定

サーバへエージェントのインストール中に、SET 操作の実行を許可するユーザが所属するグループを設定してください。ServerView エージェントのインストールと設定は、OS およびバージョンによって異なります。詳細は [37 ページ](#) の「SNMP サービスの設定」の項をご覧ください。

管理用サーバ／パソコンでのユーザの特定

管理用サーバでは、現在のサーバで SET 操作の実行を許可されているユーザを **Operations Manager** で指定する必要があります。管理用サーバを使用して SET 操作を実行すると、ユーザは識別情報の入力を求められます。

「サーバのプロパティ」ウィンドウの「ログイン」タブでユーザを定義します。以下の例では、ユーザは「SVUSER」です。

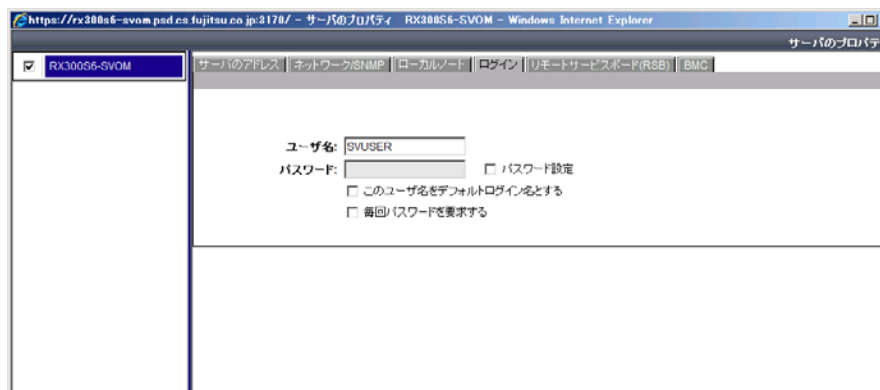


図 11: ユーザ認証

セキュリティ上の理由から、ユーザにパスワードを割り当てた場合、ここにパスワードも入力することを推奨します（「パスワードを設定」）。「常にパスワードを聞く」オプションでは、設定を変更した後、毎回ユーザ名とパスワードを入力するか、**Operations Manager** 起動後に初めて修正を行った時のみ入力するかを指定できます。「常にパスワードを聞く」を有効にした場合はパスワードは保存されないため、セキュリティを高めることができます。

プロパティウィンドウの右側の列で、設定を適用するサーバを選択できます。また、一度に複数のサーバを選択することもできます。これにより、各サーバにそれぞれ設定を適用するのか、または同じ設定を複数のサーバにまとめて適用するのかを指定できます。

プロパティウィンドウを開く方法は、『**ServerView Operations Manager**』ユーザガイドに記載されています。

2.3.4 SNMP エージェントの OS 固有な特徴

ServerView のセキュリティコンセプトの実現に関係した OS およびエージェントバージョンに固有する手順について説明します。

ServerView セキュリティコンセプト (Windows Server 2003 用 ServerView エージェントバージョン 3.0 の場合)

ServerView エージェント (バージョン 3.0) のインストール中に、セキュリティを設定します。

- ServerView エージェントの SNMP SET 操作を許可または禁止します。SET 操作を禁止した場合、使用する SET ツールに関わらず、すべての SNMP SET が拒否されます (管理用サーバ/パソコンには Operations Manager の「再起動設定」タブおよび「電源投入/切断」タブの「サーバで有効にする」に表示されています)。



このオプションは ServerView エージェントのみに適用されます。他の SNMP エージェントの SET 操作は影響を受けません。

- SET 操作のユーザ認証を有効または無効にします。ユーザがサーバ上で SET 操作を実行するために所属するユーザグループを入力します。

Windows Server 2003 で、このフィールドに名前を入力しない場合、サーバの SET 操作にアクセスできるのはローカルシステム管理者のみになります。

- SET 操作 (例: 復元画面にある再起動/シャットダウン/シャットダウンの中止など) には、システムをシャットダウンする、または再起動するものもあります。これら特別な SET 操作を許可または禁止します。

エージェントのインストールについて、詳細は [43 ページ](#) の「[ServerView エージェントのインストール](#)」の章をご覧ください。

2.4 SNMP サービスの設定

監視対象サーバおよび管理用サーバ／パソコンに、SNMP サービスのインストールおよび設定を行ってください。

SNMP サービスのインストールおよび設定時には、デフォルト値が表示されます。SNMP サービスのデフォルト値は変更できます。デフォルト値を変更した場合は、管理用サーバでも該当の値を必ず変更してください。

次の値を設定します。

－ SNMP 要求を受け入れるコミュニティ文字列

コミュニティ名（コミュニティ文字列）は、管理プログラムからエージェントへ送信される各 SNMP 要求の一部です。

コミュニティ名は「**public**」で使います。

ほとんどの SNMP サービスはこのデフォルトエントリを使用します。セキュリティの理由上、このエントリを変更することをお勧めします。各サーバまたはサーバグループに対して個別のコミュニティを定義できます。管理用サーバ／パソコンでも該当する変更を行います。



- － コミュニティ名は大文字と小文字を区別します。

- － コミュニティ名を設定できます。この方法の詳細については、ホワイトペーパー『Secure PRIMERGY Server Management』に記載されています。

－ コミュニティの権限

コミュニティに権限が割り当てられます（例：読み取りのみ、読み取り／書き込みなど）。すべての **Operations Manager** 機能を使用したい場合は、コミュニティに読み取り／書き込み権限を与えてください。アクセス権限（読み取りのみ）を割り当てることにより、いくつかの機能へのアクセスを制限できます。

ServerView 管理プログラムは、サーバにつき 1 つの SNMP 要求用コミュニティのみに対応します。このため、1 台のサーバに対して、異なったアクセス権限を使って別のコミュニティを設定することはできません。

－ 選択された／任意のサーバからの SNMP パケットの受け入れ

管理用サーバ／パソコンとして機能するサーバの IP アドレスを入力することをお勧めします。これにより、無許可のサーバからの要求をエージェントが受け入れないようにします。

– トラップの宛先

ServerView エージェントがトラップを送信する管理用サーバ／パソコンの IP アドレスを設定します。

– トラップ送信用のコミュニティ文字列

ここでは、**SNMP** トラップの一部として管理用サーバ／パソコンに送信されるコミュニティ名を入力します。管理用サーバ／パソコンの **SNMP** サービスは、このコミュニティ名の受信を許可するように設定してください。



- **SNMP** サービスのインストールおよび設定が正しいタイミングで行われるように注意してください。使用している **OS** により、エージェントのインストール前、またはインストール後に、**SNMP** サービスのインストールおよび設定が行われます。
- コミュニティ名は、通常「**public**」が設定されています。コミュニティ名を「**public**」のまま使用すると、第三者によって情報が取り出されたり、電源制御などの装置を操作されたりする危険性があります。任意のコミュニティ名に変更することを推奨します。なお、コミュニティ名／**SNMP** パケット受け付けホストが正しく設定されていないと、認証エラー ("Unauthorized messagereceived.") になります。コミュニティ名／**SNMP** パケット受け付けホストを十分確認したうえで、設定してください。

2.4.1 Windows Server 2003 / Windows Server 2008



SNMP サービスをインストールして有効化した後、Windows の Service Pack をインストールできます。

SNMP サービスのインストールと有効化を設定します。Windows Server 2003 または Windows Server 2008 のインストール後、システムインストール中に以下の手順を実行していない場合は、ServerView エージェントをインストールする前に実行してください。

- ▶ 「スタート」→「プロパティ」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」→「Windows コンポーネントの追加と削除」の順に選択します。
- ▶ 「Windows コンポーネント」ウィンドウで、「管理とモニタツール」エントリを選択します。
- ▶ 次に、「詳細」をクリックします。
- ▶ 「簡易ネットワーク管理プロトコル」エントリを選択し、「OK」をクリックします。
- ▶ 「次へ」をクリックします。
- ▶ 「スタート」→「プロパティ」→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンポーネントサービス」の順に選択します。
- ▶ 「SNMP サービス」を選択し、「操作」メニューから「プロパティ」を選択します。
- ▶ 「トラップ」タブで、コミュニティ名に名前を入力します。「public」と表示されている場合はそのままでも構いません。



「public」は Windows Server 2003 では表示されません。必ずコミュニティ名を入力してください。

管理用サーバ/パソコンのアクセス権限を制御するために「コミュニティ名」を使用します。ここに入力したコミュニティに所属する管理用サーバ/パソコンのみがサーバ上でクエリを実行できます。

「public」以外のコミュニティ名を設定した場合は、管理用サーバ/パソコンで関連サーバに対して同じコミュニティ名に変更してください。

- ▶ 「トラップの宛先」では、「追加」をクリックして指定したコミュニティの管理用サーバ/パソコンの IP アドレスを入力します。

トラップはここで入力された管理用サーバ/パソコンのみ送信されません。

- ▶ 「セキュリティ」タブでコミュニティの権限を「読み取り／書き込み」に設定します（デフォルトエントリ「public」の場合）。
- ▶ 選択したサーバ／任意のサーバ（ホスト）からの **SNMP** パケットを受け入れます。**SNMP** パケットが受け入れられる監視対象サーバを選択するか、または、すべてを選択できます。

Windows Server 2003 では、**SNMP** は最も高いアクセス保護レベルでインストールされます。したがって、管理用サーバ／パソコンを指定するか、または「任意のホストからの **SNMP** パケットを受け入れる」オプションを選択します。



SNMP はパスワード保護がないオープンプロトコルです。無許可のネットワークユーザが重要なシステムパラメータを改ざんし、サーバ動作を中断させる危険性に留意して設定してください。

- ▶ 「OK」ボタンをクリックします。
- ▶ サービスで **SNMP** サービスを開始します。「操作」メニューから「開始」を選択します。

2.4.2 Server Core インストール環境の場合

Server Core のローカルコンソール環境では、Microsoft 管理コンソール (MMC) の GUI ベースの管理ツールは動作できません。次に示す操作は、Windows Server 2008、Windows Server 2003、Windows XP の別端末から管理ツールを起動し、リモート接続した場合の操作手順です。

SNMP サービスの設定を行うため、Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の装置とは別の Windows 端末が必要になります。あらかじめ用意してください。

1. Server Core インストール環境の端末で、次のコマンドを実行し、SNMP サービスがインストールされ、開始されていることを確認します。

```
> sc query SNMP
```

SNMP サービスがインストールされていない場合は、次のコマンドを実行し、SNMP サービスをインストールします。

```
> start /w ocsetup SNMP-SC
```

2. 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザでログインします。
3. コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。

Windows Server 2008 では、ファイアウォールがデフォルト設定で有効になっています。リモート管理に必要な通信を許可する必要があります。

```
> netsh firewall set service remoteadmin enable
```

```
> netsh advfirewall set currentprofile settings remotemanagement enable
```

以降の操作は、Server Core に接続するために別の Windows 端末で行います。

4. 別の Windows 端末上でコマンドプロンプトを起動して次のコマンドを実行します。

操作の途中で Administrator のパスワードの入力が必要になります。

次の「xxx.xxx.xxx.xxx」には、管理対象サーバ (Server Core) の IP アドレスを入力します。

```
net use \\xxx.xxx.xxx.xxx\c$ /u:Administrator
```

5. 次のコマンドを実行します。

```
>services.msc
```

2 監視対象サーバへのインストール

6. 「操作」メニュー「別のコンピュータへ接続」の順にクリックします。
「コンピュータの選択」が表示されます。
7. 「別のコンピュータ」に上記の **Server Core** サーバの IP アドレス、またはマシン名を入力して、「OK」をクリックします。

Server Core サーバのサービス一覧が表示されます。

以降は、サービスに **SNMP Service** があることを確認してください。



ローカルコンソール環境での **SNMP** の設定および変更は未サポートです。

3 ServerView エージェントのインストール



管理対象サーバで RBAC 機能を使用する場合：

ServerView エージェントをインストールする前に、信頼される中央管理用サーバ（CMS）の SSL 証明書をインポートする必要があります。詳細は、『**User management in ServerView**』マニュアルを参照してください。

3.1 Windows 2003/2008

ServerView エージェントをインストールする前に、必ず **SNMP** サービスをインストールし設定してください。管理用サーバ／パソコンはサーバを監視できません（詳しくは、[37 ページ](#) の「**SNMP サービスの設定**」の項をご覧ください）。インストールを開始する前に、**ServerView** のセキュリティコンセプトについて計画してください。詳しくは、[31 ページ](#) の「**ServerView セキュリティコンセプト**」の項をご覧ください。

3.1.1 エージェントのインストールおよび設定



バージョン 4.0 の **ServerView** エージェントの自動インストールについては [66 ページ](#) の「**コマンドラインを使用したインストール**」の項で説明します。

ServerView Suite DVD 1 を使用してバージョン 5.0 の **ServerView** エージェントをインストールします。

- ▶ **ServerView Suite DVD 1** を DVD-ROM ドライブにセットします。DVD が自動で起動しない場合は、DVD のルートディレクトリ内の **start.html** ファイルをクリックします。
- ▶ 「**ServerView Software Products**」 オプションを選択します。
- ▶ Windows 用エージェントをインストールするには、「**ServerView**」→「**ServerView SNMP Agents**」の順に選択し、**ServerViewAgents_Win_i386.exe** を起動します。

要件に最も適したインストールを選択します。

- ▶ ご使用の OS に応じたコマンドを使用してエージェントをインストールします。
- ▶ 画面上の手順に従います。

セットアップウィザードの起動

使用許諾条件への同意が確認済みの場合、システムのセットアップは、旧バージョンの **ServerView** エージェントがサーバにインストール済みかどうかを確認します。インストール済みであれば、アップグレードインストールを行うことができます。アップグレードインストール時には、現在の設定が保存され、旧バージョンが削除されてから新バージョンが以前の設定に基づいてインストールされます。この場合、設定の変更はできません。

システム上にエージェントがなければ以下の画面が開きます。

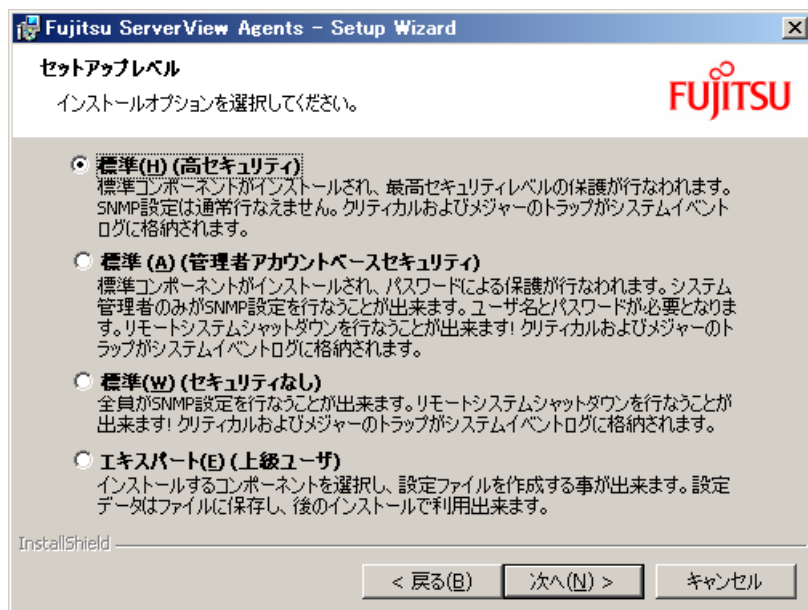


図 12: 「Setup Level」画面

この画面では、エージェントをインストールするための 4 つのデフォルトのレベルが提供されます。

- 標準（高セキュリティ）
- 標準（管理者アカウントベースセキュリティ）
- 標準（セキュリティなし）
- エキスパート（上級ユーザ）

Expert モード以外を選択した場合、**Operations Manager** に必要な **SNMP** エージェントと主なツール（**Configuration**、**Maintenance**、および **Diagnostic**）がインストールされます。ツールについての詳細は、以降で記載している **Expert** モードの説明の最後を参照してください。**Expert** モード以外のモードでは、セットアップには選択されたセキュリティレベルに対するデフォルト値が使用されます。

Expert モードを選択した場合、インストールと設定に関する値を個別に入力します。**Expert** モードでは、ウィザードがインストールと設定に関する必要な値をガイドします。

標準（高セキュリティ）

この標準インストールモードはセキュリティレベルが最高であり、どんな **SNMP SET** 操作も許可しません。**SET** 操作は、使用する **SNMP** コミュニティが書き込み許可を持っていてもできません。

この標準インストールの設定は、コミュニティに読み取り / 書き込み権を割り当てたり、新しいユーザグループとユーザを作成したりすることで変更することができ、それに従ってエージェントを再設定することができます。

標準（管理者アカウントベースのセキュリティ）（Windows 2003 Server についてのみ有効）

この標準インストールモードでは、**SNMP SET** 操作が許可されます。管理用サーバによる **SET** 操作については、ローカルの管理者権限およびパスワードが認証されます。しかし、その他の **SNMP** ツールを使用して実行してきた **SET** 操作にはパスワードで保護されたセキュリティは確保されません。使用する **SNMP** コミュニティには **SET** 操作を実行するための書き込み許可が必要です。書き込み許可がないと、OS のセキュリティメカニズムによって **SET** 操作ができません。

この標準インストールの設定は、OS 特有のリソースで新しいユーザグループとユーザを作成することで変更したり、設定ツールの「**Agents Configuration**」でエージェントを再設定することができます。

標準（セキュリティなし）

この標準インストールモードでは、**SNMP** の **SET** 操作は、パスワードで保護されたセキュリティもユーザ認証も必要なく許可されます。このインストールモードは、安全な内部ネットワークでのみ使用してください。使用する **SNMP** コミュニティには **SET** 操作を実行するための書き込み許可が必要です。書き込み許可がないと、**OS** のセキュリティメカニズムによって **SET** 操作ができません。

エキスパート（上級ユーザ）

Expert モードには以下のオプションがあります。

- その他のコンポーネントを選択します。
- エージェントパッケージを個別に設定します。ここでは、**SNMP** トラップの送信、**SNMP** のセキュリティ設定、およびシステムシャットダウンの振る舞いを個別に設定することができます。
- リモートの管理コントローラを事前に設定します。インストール中にリモートのマネージャコントローラの主な設定を定義し、セットアップ中にこの設定をシステムに転送することができます。
- 自動インストール（非対話型セットアップ）用の設定ファイルを作成します。管理コントローラの構成の設定とエージェントの設定をファイルに保存し、のちに非対話型セットアップに使用することができます。

Expert モードを選択すると、以下の画面が開きます。

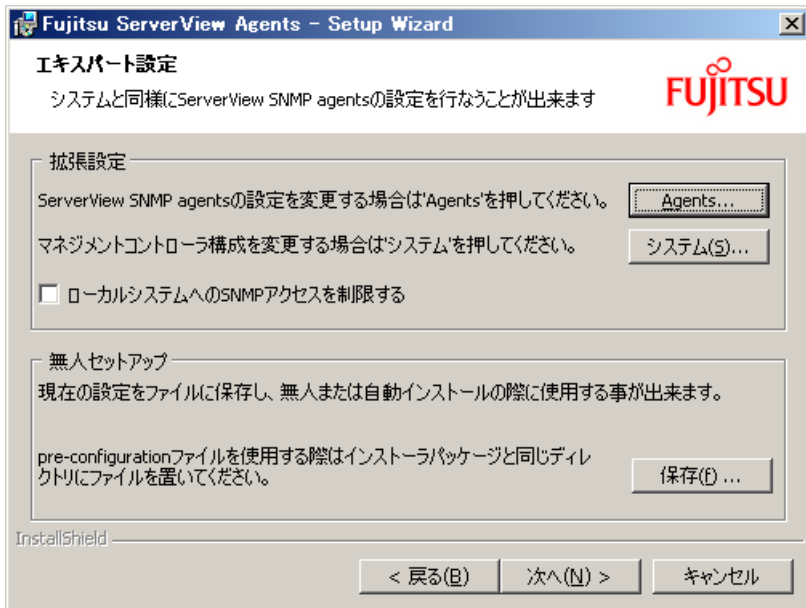


図 13: 「エキスパート設定」画面

「エキスパート設定」画面には以下のオプションがあります。

- **ServerView** エージェントを設定します。
- サーバのファームウェアを設定します。
- 「ローカルシステムへの **SNMP** アクセスを制限する」。このオプションは、「**SNMP** サービスの設定」 – 「これらのホストから **SNMP** パケットを受け付ける」を定義し、**LOOPBACK** アダプタを入力します。このオプションを選択すると、外部からシステムにアクセスすることはできません。このオプションは、イベント管理がサーバにインストール済みであり、かつサーバが管理用サーバとして使用されていない場合のみ成立します。
- エージェントの非対話型インストールに使用する設定ファイル *Setup.pre* へのパスを定義します。

3 ServerView エージェントのインストール

この画面には以下のボタンがあります。

Agents ...

ServerView エージェントの設定を変更できる画面を開きます。詳細は以下の次項を参照してください。

システム ...

サーバのファームウェアの設定 (**Boot Watchdog**、**Software Watchdog**、**UPS Configuration** など) を作成できる画面を開きます。詳細は、「サーバのファームウェアの設定」の項を参照してください。

保存 ...

設定ファイル *Setup.pre* を保存するためのパスを入力する画面が開きます。このファイルは自動インストール (非対話型セットアップ) に使用されます。(66 ページ の「[コマンドラインを使用したインストール](#)」の項もご覧ください。)



この設定ファイルは *Setup.exe* と同じディレクトリにある必要があります。

戻る

前の画面に戻ります。

次へ

次の画面を表示します。

キャンセル

インストールをキャンセルします。

ServerView エージェントの設定

ServerView エージェントの設定を開始するには、「**Agents ...**」ボタンをクリックします。「**ServerView SNMP agents settings (offline)**」画面が開きます。

この画面にはタブが **4** つあります。

- **トラップ転送**
- **システムシャットダウン**
- **セキュリティ設定**
- **しきい値監視**

「トラップ転送」タブ

ServerView エージェントが作成したすべての **SNMP** トラップは、OS のイベントログに記録されたり、管理者の警告メッセージとして送信されたりします。送信のタイプはトラップに割り当てられた重要度によって異なります。重要度は、以下のものがあります。

- critical （危険）
- major （重度）
- minor （軽度）
- informational （情報）

イベントログタイプに対する重要度は次のとおりです。

トラップ重要度	イベントログタイプ
critical または major トラップ	エラー
minor トラップ	警告
informational トラップ	情報

サーバのレポートサービスは、トラップが管理者に送信される前に設定され、稼動している必要があります。メッセージの対象者は、**Windows** のコンピュータの管理プロパティで定義されていなければなりません。

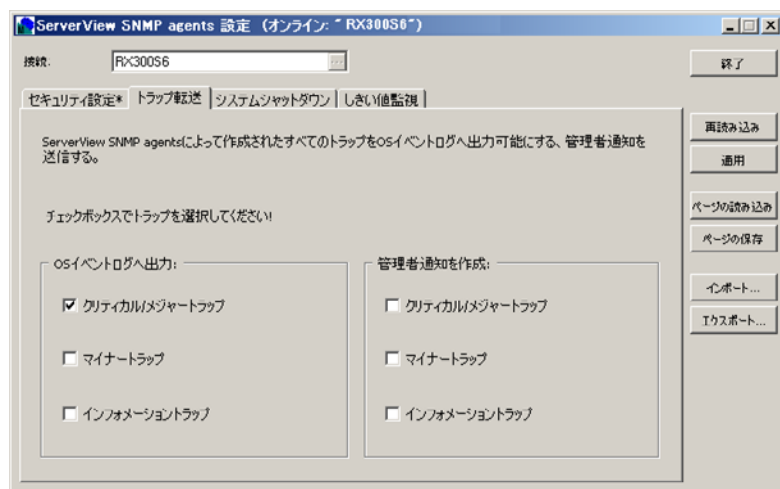


図 14: 「トラップ転送」タブ

「トラップ転送」タブによって送信する **SNMP** トラップのタイプを選択します。デフォルトの設定では、すべてのトラップがシステムのイベントログに記録されます。

「システムシャットダウン」タブ

ServerView エージェントはシステムシャットダウンを実行することができます。シャットダウンは、管理用サーバでの操作やシステムエラーの発生によって始動させることができます。

デフォルトでは、**ServerView** エージェントは常にソフトシャットダウンを実行します。ユーザに対して実行中のアプリケーションがあれば閉じ、さらにシャットダウンを確認するように要求します。プリセットされた時間遅延が経過すると、**ServerView** エージェントはハードシャットダウンを実行し、明確に確認することも、データをハードディスクに保存することもなく **OS** をシャットダウンします。この遅延時間のデフォルト値は **120** 秒です。データを大量にハードディスクに保存する必要がある場合、それに応じてこの値を大きくしてください。

ソフトシャットダウンが始まる前にアプリケーション（シャットダウンジョブ）の起動を選択することができます。

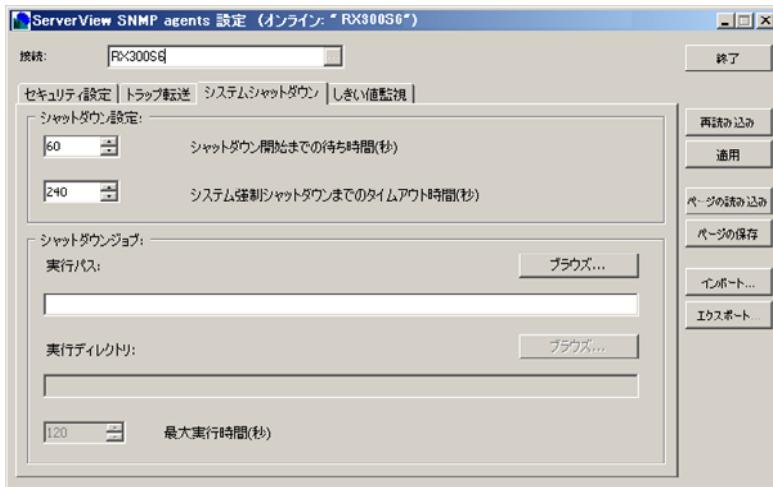


図 15: 「シャットダウン」タブ

「シャットダウン」タブでは以下のシャットダウンの設定を定義することができます。

- シャットダウンが始まるまでに経過すべき遅延時間
- ソフトシャットダウンがハードシャットダウンに切り替わるまでに経過すべき時間
- システムシャットダウンの前にまだ実行予定のアプリケーション

シャットダウン開始までの待ち時間 (秒)

この設定は、シャットダウンが始まるまでに経過すべき遅延時間 (秒) を定義します。この遅延時間中、システムコンソールからシャットダウンを中断することができます。

システム強制シャットダウンまでのタイムアウト時間 (秒)

この設定は、ソフトシャットダウン (データの保存を含む) を完了するまでの時間間隔 (秒) を定義します。この時間が経過すると、システムはデータを保存せずにハードシャットダウンを開始します。

実行パス

実行可能プログラムやスクリプトのパス名。パスには、`%SystemRoot%` などの環境変数も含まれます。

実行ディレクトリ

ジョブの作業ディレクトリを指定します。

最大実行時間 (秒)

ジョブの最大持続時間を指定します。このフィールドにセットされた最大時間が経過するとシャットダウンが開始します。

「セキュリティ設定」タブ

管理用サーバとともに使用される **ServerView** エージェントは、完全なセキュリティコンセプトを提供し、サーバ上の **SNMP SET** 操作へのアクセスを制限します。**SET** 操作へのアクセスを防いだり、管理用サーバと共同して行う場合にユーザ認証による保護によってこの操作へのアクセスを可能にしたりすることができます。

ユーザ認証のオプションを選択した場合、**SET** 操作を開始するたびにシステムはユーザ認証ルーチンを実行します。認証ルーチンが成功すると、システムはまた、管理者が定めたユーザグループの 1 つにユーザが所属しているかどうか確認します。



このユーザ認証システムは管理用サーバ上の **Operations Manager** のみ稼動します。その他の **SNMP** ツールでは稼動しません。

セキュリティ設定は以下のタブで定義することができます。

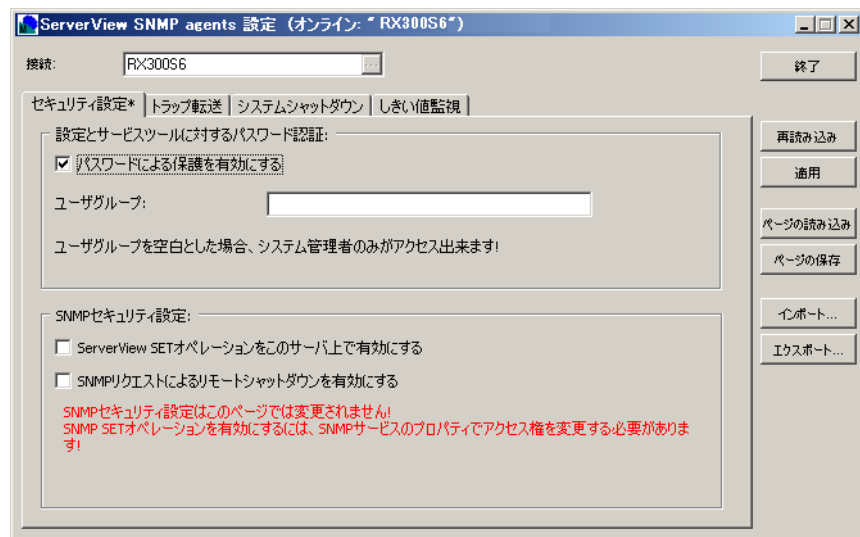


図 16: 「Security Settings」タブ

ServerView SET オペレーションをこのサーバ上で有効にする

ServerView エージェントによる **SNMP SET** 操作を有効にします。

SET 操作を禁止すると、SET を実行するためのツールにかかわらず、すべての **SNMP SET** へのアクセスができません。



このオプションは **ServerView** エージェントに対してのみ有効です。このオプションはその他の **SNMP** エージェントには無効です。

パスワードによる保護を有効にする

このチェックボックスによって、**SNMP SET** 操作へのアクセスを保護するユーザ認証を有効 / 無効にします。

ユーザグループ

サーバで **SET** 操作をするためにユーザが所属すべきユーザグループを指定します。ここでは、任意のユーザグループを作成することができます。

ユーザグループが存在しない場合は、OS に特有な方法によってこのグループを作成する必要があります。

この時点ではユーザをユーザグループに割り当てないでください。しばらく待ってください。ユーザのユーザグループへの割り当ては **OS** レベルで、エージェントのインストールの前か後で行われます。セキュリティのため、ユーザは 1 つだけ入力することをお勧めします。デフォルトでは、"**FUJITSU SVUSER**" でユーザグループを作成します。



「**Usergroup**」に名前を入力しない場合、ローカルのシステム管理者だけサーバでの **SET** 操作にアクセスすることを許可されます。

SNMP リクエストによるリモートシャットダウンを有効にする

SET 操作にはシャットダウンやシステムの再起動を引き起こすものがあります。このチェックボックスを使用して **SET** 操作の特別なタイプを有効 / 無効にしてください。

「しきい値監視」タブ

プロセッサ、ネットワークインターフェイス及び論理ドライブに対するしきい値監視を有効にする。

サーバのファームウェア設定

サーバのファームウェア設定を開始するには、「エキスパート設定」を選択し、「システム」ボタンをクリックします。「システム構成 (オフライン)」画面が表示されます。



図 17: 「システム構成 (オフライン)」画面

「システム構成 (オフライン)」画面で、ご使用のハードウェアを選択します。

「進む ...」をクリックして確認します。次の画面が表示されます。

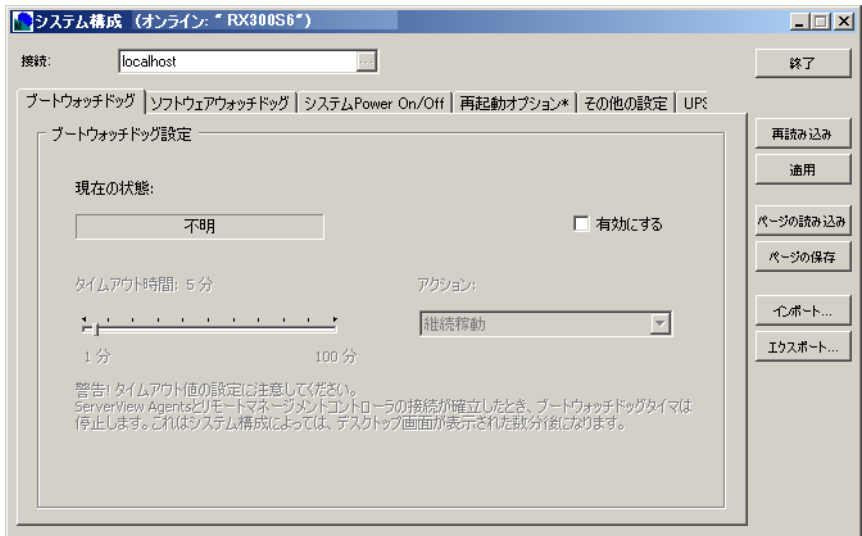


図 18: 「System Configuration」画面－タブ

この画面に表示されるタブは現在のシステムによって異なります。これらのタブを使用して現在のシステムのファームウェアを設定してください。

System Configuration は、[29 ページ](#) の「[機能の概要](#)」の項に記載されている **Server Configuration Manager** によって提供されています。この項では、システム設定のためのタブとタブの機能について説明します。

「OK」をクリックして変更を確認し、「エキスパート設定」画面に戻ります。「キャンセル」をクリックすると変更を保存せずに「エキスパート設定」画面に戻ります。

セットアップタイプの指定

「エキスパート設定」画面で「OK」をクリックして、エージェントとファームウェアの設定を確認します。次に「セットアップタイプ」画面に進み、セットアップタイプを選択します。



図 19: セットアップタイプの選択

必要なセットアップタイプを選択します。

すべて

すべての機能をインストールするインストールを開始したい場合にこのオプションを選択します。このタイプはメモリスペースを最も多く必要とします。

カスタム

個々の機能を選択し、パスを指定したい場合にこのオプションを選択します。レポートデータの保存場所や「**ServerView Remote Connector**」サービスのポートを指定することもできます。

「カスタム」、さらに「次へ」と選択すると以下の画面が開きます。

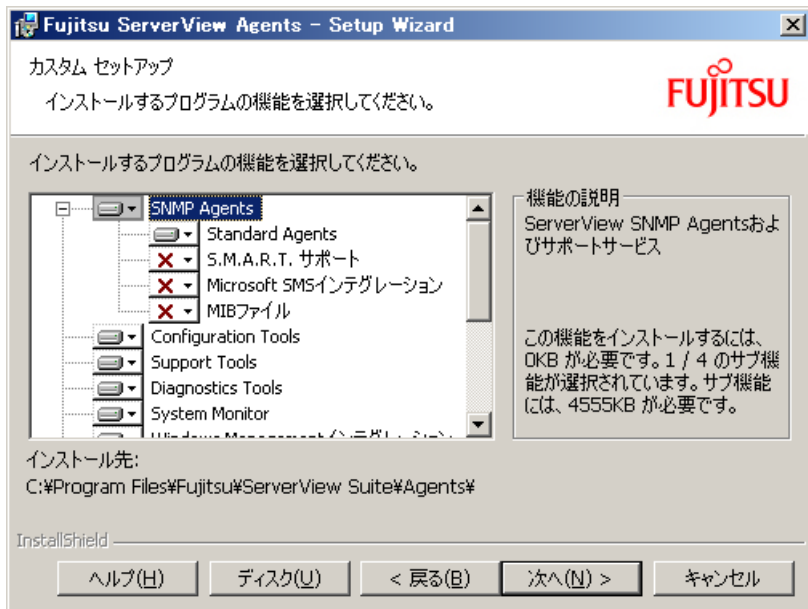


図 20: 「Custom Setup」画面

この画面では以下の機能を選択することができます。

- SNMP Agents (Standard Agents, S.M.A.R.T. サポート, Microsoft SMS インテグレーション, MIB ファイル)
- Configuration Tools
- Support Tools
- Diagnostic Tools
- Windows Management インテグレーション
- 仮想化管理 Agent
- HP Systems インテグレーション
- Asset CLI
- PrimeCollect
- ヘルプファイル
- Remote Connector Service
- Server Control Service (常に選択されます。インストールパッケージの標準部分)
- Single System Monitor

3 ServerView エージェントのインストール

下の表は選択可能な機能の概要です。

機能	説明
Standard Agents	Operations Manager に必要な SNMP エージェント
S.M.A.R.T. サポート	S.M.A.R.T. 監視のサポート
Microsoft SMS インテグレーション	Microsoft SMS V 1.2 と V 2.0 用に自動的に MIF ファイルを作成するソフトウェア
MIB ファイル	ServerView MIB ファイル
Configuration Tools	エージェントとシステムの設定ツール
Support Tools	技術者用のツール
Diagnostic Tools	各種診断ツール（インストールテストなど）
Windows Management インテグレーション	Microsoft Windows Management (WMI) へのインテグレート
仮想化管理 Agent	仮想マシン (Xen、Hyper-V、VMWare) のパフォーマンスデータを提供します。
HP Systems インテグレーション	HP SIM (System Insight Manager) へのインテグレート
Asset CLI	システムデータ情報を読み取るためのカスタムユーティリティ
PrimeCollect	サーバのハードウェアおよびソフトウェアの情報を収集し格納するためのツール
ヘルプファイル	ヘルプファイル
Remote Connector Service	HTTP ベースのサービスの提供
Server Control Service	基本サービス
ServerView System Monitor	システム監視用ツールです。ServerView System Monitor の説明は、該当のユーザガイドを参照してください。

インストール済みのツール

インストールが成功すると、「スタート」→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Suite」→「Agents」の下に、以下の項目ができています。

- Configuration Tools - 設定ツールメニュー
- Diagnostic Tools - 診断ツールメニュー
- Support Tools - サポートツールメニュー



インストール後、設定を完了するのにしばらく時間がかかります。そのため、設定の問い合わせをするとシステムが古い値を表示している場合があります。

下の表はこれらの項目の下で使用可能なツールの概要です。

Diagnostic Tools メニュー

Restart ServerView Base Services	ServerView エージェントを再起動します。
Run ServerView Diagnostics	インストールされた ServerView の機能を調べます。
System Identification	システムの全般的な情報を表示します。

Configuration Tools メニュー

Agents Configuration	ServerView エージェントの設定を変更します。
System Configuration	ファームウェアの設定を変更します。

Maintenance Tools のメニュー項目（技術者用ツール）

CPU State	CPU の概要を表示します。
Memory Statistics	搭載されている、すべてのメモリモジュールの詳細リストを表示します。このツールを使用してメモリモジュールのエラーカウンタをリセットします。メモリモジュールを変更したら、エラーカウンタをリセットすることをお勧めします。

コンポーネントを選択すると、次の画面が表示されます。

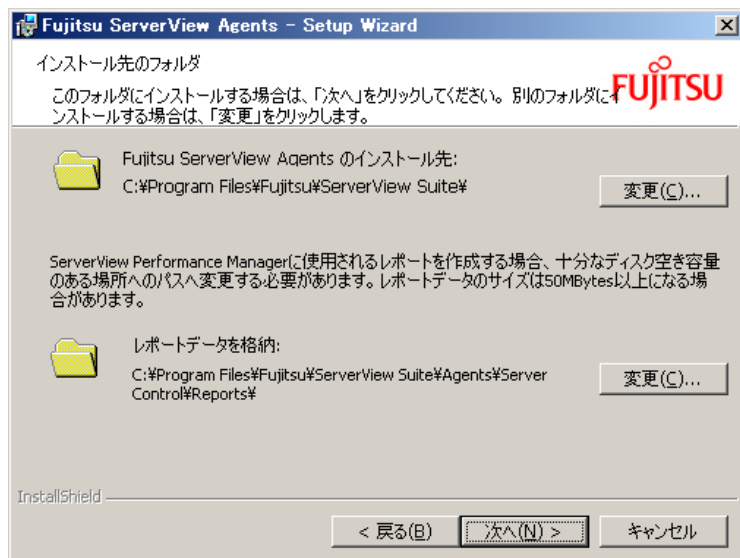


図 21: 「Report Folder」画面

パフォーマンスマネージャを使用している場合、レポートデータはデフォルトではインストールディレクトリに保存されます。アプリケーションによってはこのデータは簡単に 50 M バイト以上になってしまうため、「変更」ボタンを使用して十分なスペースがある別のディレクトリを選択することができます。

「次へ」をクリックしてインストールを開始します。

3.1.2 RAID の設定

RAID の設定では、ServerView RAID Manager を使用できます。ServerView RAID Manager は、ServerView Suite DVD 1 の「RAID Manager」に格納されています。

Mylex Host RAID Adapters をサポートするには、GAM ソフトウェアおよび GAM SNMP のインストールが必要です。GAM ソフトウェアは ServerStart DVD に格納されています。

3.1.3 APC および Masterguard UPS の設定

下記のことを行いたい場合は、無停電電源装置（UPS）をシステムまたはその他のキャビネットに接続する必要があります。

- Operations Manager で UPS を表示する。
- 現在の UPS 状態を表示する。

UPS 状態を表示するには、サーバに UPS SNMP エージェントをインストールする必要があります。SNMP エージェントは、UPS のメーカーによって提供されます。Web カードを搭載した UPS の場合は、SNMP エージェントを Web カードにプリインストールする必要があります。

UPS の SNMP エージェントとの通信を行うには、Operations Manager に以下のデータ項目が必要です。

- メーカー
- モデル名称
- SNMP エージェントの基本オブジェクト識別子（OID）
- ホストの IP アドレスの名称

IP アドレスは SNMP がエージェントと通信するのに必要なため、指定する必要があります。サーバおよび UPS の IP アドレスを入力します。

APC および Masterguard の UPS モデルの場合は、SNMP エージェントの基本 OID を入力する必要はありません。Operations Manager は、これらの 2 つのモデルのモデル名とメーカー名を識別して、該当する SNMP OID を自動的に割り当てます。これらのタイプの場合は、用意されているデフォルト設定を使用し、IP アドレスだけを変更することを推奨します。

UPS アプリケーションのインストール（ServerView V3.5 まで）

既存の UPS 設定を ServerView に表示する場合は、まず管理用サーバに PowerNetManager アプリケーション（シリアル接続による APC UPS の場合）、または upsmmon（Masterguard UPS の場合）をインストールする必要があります。インストール中に、該当するエントリがレジストリに作成されます（『Operations Manager User Guide』の APC UPS に関する項も参照）。



V5.304 から、APC 用 PowerNetManager が ServerSupport CD に収録されています。V5.302 までは、ServerStart DVD に収録されています。upsmon は独立した製品です。

PowerNetManager をインストールするには、次の手順に従います。

- ▶ **ServerView Suite** ソフトウェア CD を CD-ROM ドライブに挿入します。CD が自動的に起動しない場合は、CD のルートディレクトリにある **start.html** ファイルをクリックします
- ▶ 目的の言語を選択します。
- ▶ 「ServerView Suite」→「ServerView」の順に選択して、「APC Powernet Manager」の **APCPNM.exe** プログラムを起動します。画面に表示される指示に従います。

UPS アプリケーション (ServerView V3.6 現在) のインストール

既存の UPS 設定を ServerView/Operations Manager に表示する場合は、まず管理用サーバに **PowerChuteBusiness Edition** アプリケーション（シリアル接続による APC UPS の場合）、または **upsmon**（Masterguard UPS の場合）をインストールする必要があります。インストール中に、該当するエントリがレジストリに作成されます（『Operations Manager User Guide』の APC UPS に関する項も参照）。



PowerChuteBusiness Edition は、APC の CD で入手できます。**upsmon** は独立した製品です。

Windows Server 2003 で UPS を設定する

エージェントのインストール時に UPS を設定します。それには、「エキスパート設定」ウィンドウに移動し、「システム ...」ボタンをクリックして「UPS 連携」タブを選択します。このタブで、目的の UPS を選択します。

UPS を後で設定することもできます。それには、「Configuration Tools」メニューに移動し、「System Configuration」メニュー項目を選択して「UPS 連携」タブをクリックします。

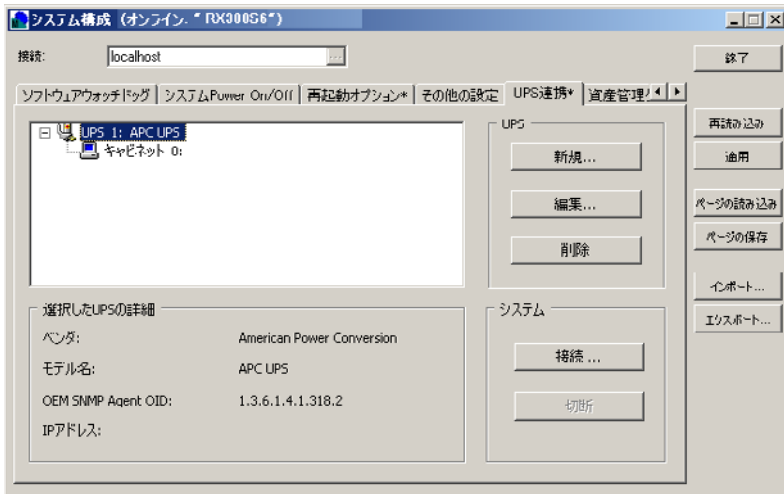


図 22: 「UPS 連携」タブ

新規

新しい UPS を追加するには、このボタンをクリックします。新しいウィンドウが開きます。このウィンドウで、モデル名称、メーカー名、**SNMP 基本 OID**、ホスト名（または IP アドレス）を入力する必要があります。この情報は、**Operations Manager** と **UPS エージェント**間の通信を有効にするために必要です。ここで追加した **UPS** には連番が付けられます。

編集

既存の **UPS** 設定を編集するには、このボタンをクリックします。

解除

選択した **UPS** を設定から削除するには、このボタンをクリックします。必ず正しく連番が割り当てられるように、残っている **UPS** には番号が付け直されます。

接続

このボタンをクリックすると、選択した **UPS** をシステムユニット（サーバまたはその他のキャビネット）に接続できるウィンドウが開きます。**UPS** を各システムユニットに接続できます。この接続は、システムユニットの識別番号に基づいて行われ、**Operations Manager** で **UPS** を表示するために必要です。

システムをオンラインで設定している場合はリストが表示され、リストには、すべてのシステムユニット（サーバおよび接続されたその他のキャビネット）が識別番号とモデル名称とともに表示されます。このリストで、**UPS** を接続するシステムユニットを選択します。「OK」をクリックして選択を確定します。システムユニットは複数選択できます。

システムをオフラインで設定している場合は、システムユニットのリストは表示されません。したがって、自身のシステムの識別番号がわかっている必要があります。

切断

このボタンをクリックすると、システムユニット（サーバユニットまたはその他のキャビネット）から **UPS** が切断されます。

3.2 Windows 2003 / 2008 x64 エージェント

Windows 2003 x64 用 ServerView エージェントは、ServerView Suite DVD 1 (バージョン 5.304 現在) を使用して以下のようにインストールします。

- ▶ ServerView Suite DVD 1 を DVD-ROM ドライブに挿入します。DVD が自動的に起動しない場合は、DVD のルートディレクトリにある ***start.html*** ファイルをクリックします。
- ▶ 「Select ServerView Software Products」 オプションを選択します。
- ▶ 「Start」 をクリックします。
- ▶ 表示されるウィンドウで、目的の言語を選択します。
- ▶ Windows 用エージェントをインストールするには、「ServerView」 → 「ServerView SNMP Agents」の順に選択し、***ServerViewAgents_Win_x64.exe*** を起動します。

要件に最も適したインストールを選択します。

- ▶ ご使用の OS に応じたコマンドを使ってエージェントをインストールします。
- ▶ 画面上の指示に従います。

詳しくは、[43 ページ](#) の「Windows 2003/2008」の項をご覧ください。

3.3 コマンドラインを使用したインストール

コマンドラインのコマンドを使ってエージェントをインストールできます。

Setup.exe

ServerView エージェントのセットアップは、Microsoft Windows Installer に基づいています。セットアップデータは、インストーラーデータベースである *ServerView Agents.msi* にあります。セットアップデータは *Data1.cab* に含まれています。

これら 2 つのデータセットは、基本的にはインストールするのに十分で、インストール時に **MSIEXEC.EXE** と一緒に使用できます。ただし、この場合は、Microsoft Installer と InstallShield スクリプトが、適切なバージョンにインストールされている必要があります。

Setup.exe プログラムには、Microsoft Installer V2.0 と InstallShield スクリプトサポートのためのインストールパッケージが含まれています。**Setup.exe** の実行時に、これらのコンポーネントはシステム上で更新され、そのあと ServerView エージェントのインストールが実行されます。

Setup.exe のコマンド構文

コマンドラインレベルに切り替えて、インストールディレクトリの最上位レベルで *setup* コマンドを以下のように入力します。

Setup.exe [/x][[/a][/s][/V]]

オプションには、以下の意味があります。

/x

アンインストールモード

セットアップは、製品をアンインストールします。

/a

管理モード

セットアップは、**Administrator Mode** で実行されます。このモードでは、すべてのデータファイルが抽出され、ディレクトリに配置されます。レジストリエントリーや接続は作成されません。

/s

サイレントモード

画面上のすべてのメッセージを抑制します。インストールは、バックグラウンドで完了します。

/V

Microsoft Installer Option

Microsoft Installer (*MSIEXEC.EXE*) に引数を直接引き渡すことができます。

Microsoft installer のプロパティ

プロパティを設定することで、インストールに影響を与えることができます。プロパティの名前は、常に大文字で書かれます。値には、大文字と小文字の区別があります。

INSTALLDIR

標準のインストールディレクトリを初期化します。設定値は次のとおりです。

有効なパス名の例：

INSTALLDIR=C:¥Programs¥Fujitsu¥ServerView Suite¥ServerView agents

標準：System Folder

REBOOT

インストール後のシステム再起動時に、動作に影響を与えます。たとえば、コンポーネントが再起動後にのみ変更できる場合に、このオプションは自動インストール後にシステムが再起動しないようにします。設定値は次のとおりです。

F

システムは常に再起動します。

R

システムは再起動しません。

SETUP_LEVEL

インストール用の **Setup** モードを設定します。設定値は次のとおりです。

LevelHigh

(標準)

「標準 (高セキュリティ)」セットアップモードでインストールします。最高レベルのセキュリティでインストールされることで、**SNMP SET** 操作を不可能にします。

LevelAdmin

「標準 (Administrator account based security)」セットアップモードでインストールします。**ServerView SNMP SET** 操作は、ローカル管理者権限とパスワードでチェックされます。

LevelAll

「標準 (セキュリティなし)」セットアップモードでインストールします。**ServerView SNMP SET** 操作は、チェック無しで可能です。このインストールモードは、安全な内部ネットワークの場合のみ推奨します。

LevelUser

エキスパート (*Advanced Users*) セットアップモードでインストールします。

ADDLOCAL

どの機能がインストールされるかを示します。いずれの機能も選択しない場合は、「標準 (高セキュリティ)」でインストールされます。個々の選択を行いたい場合は、**ADDLOCAL** で変数を示す必要があります。機能名はカンマ (,) で区切られて記載されます。

設定値は次のとおりです。

All (全て)

すべてのモジュールをインストールします。

ServerControl

(標準、必ずインストールすること)

ServerView Base Service をインストールします。

SNMPAgents

(標準)

ServerView エージェントをインストールします。

MIBFiles

ServerView エージェントの **MIB** データをインストールします。

SmartSupport

(標準)

ServerView の **S.M.A.R.T.** サポートをインストールします。

Configuration

(標準)

ServerView Configurations Tools をインストールします。

Diagnostic

(標準)

ServerView Diagnostic Tools をインストールします。

Maintenance

(標準)

ServerView Service Tools をインストールします。

SMS

SMS の **ServerView Integration** をインストールします。

WMI

(Windows NT4 では不可)

WMI の **ServerView Integration** をインストールします。

WCS

ServerView Remote Connector をインストールします。

AssetCLI

ServerView Asset CLI ツールをインストールします。

OnlineDiagnostic

Online Diagnostic ツールをインストールします。

PrimeCollect

PrimeCollect ツールをインストールします。

Help (ヘルプ)

ServerView のヘルプファイルです。

例

```
Addlocal=ServerControl,MIBFiles,WMI
```

このプログラムは、**ServerView Base Service**、**ServerView Agent MIB** データおよび WMI の **ServerView Integration** がインストールされていることを示します。

構成ファイルを使ったインストール

構成ファイルを設定するには、「エキスパート」モードでセットアップウィザードを起動してください。「エキスパート設定」タブでは、エージェントとシステム管理コントローラの設定を行うことができます。「保存」ボックスには、*Setup.pre* 構成ファイルが保存されるパス名を入力してください。構成ファイルは、**Microsoft Installer** データファイル (**ServerView Agents.msi**) と同じディレクトリに保存する必要があります。

どの設定モードを選択しても、**Setup.exe** コマンドにより構成データはシステム上のファイルから取得されます。

Setup.exe の例

Setup.exe /s/V"/qn"

標準構成の自動インストール。セットアップモードは、*Standard (High Security)* です。SNMP SET 操作は許可されておらず、重大なエラーはシステムログに記録されます。

インストールパスは、システムのフォルダです（例：C:\Programs\）。次の機能がインストールされます。

- ServerView Base Service
- ServerView Agent
- ServerView Configuration Tools
- ServerView Diagnosis Tools
- ServerView Maintenance Tools
- ServerView Remote Connector
- ServerView PrimeCollect

Setup.exe /s/V"/qn SETUP_LEVEL=LevelAll INSTALLDIR="C:\My Programs"

Standard (Without any security) セットアップモードでの適切な自動インストール、および変更されたインストールパス。

Setup.exe /s/V"/qn ADDLOCAL=ServerControl,WMI INSTALLDIR="C:\My Programs"

変更されたインストールパスを使用して、**Windows Management Instrumentation (WMI)** での統合を目的とした基本機能の自動インストール。

Setup.exe /s/V"/qn ADDLOCAL=ServerControl,WMI Reboot=R"

システムを再起動せずに、**Windows Management Instrumentation (WMI)** での統合を目的とした自動の最小インストール。

3.4 インストール後の設定

ServerView agent for Windows のインストール後、エージェントが正しく動作するように以下の設定を行います。

3.4.1 管理者ユーザの設定

ServerView の管理者権限を持つグループ (**FUJITSU SVUSER**) に属するユーザのみ、ServerView Operations Manager から監視対象サーバの ASR (Automatic ServerReconfiguration & Restart) 設定 (ファン / 温度 / 再起動設定など) やサーバのシャットダウンなどの操作を行うことができます。このとき、管理者ユーザのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。管理者ユーザを設定するには、以下の手順に従います。FUJITSU SVUSER グループと、このグループに属するユーザは自動的に作成されません。監視対象サーバごとにグループを作成し、ServerView の管理者ユーザを **FUJITSU SVUSER** グループに追加してください。

ServerView での管理者ユーザとは、**FUJITSU SVUSER** グループに所属しているユーザのことです。Windows Server 2008/Windows Server 2003 では、管理者ユーザアカウントにパスワードを設定しないと、管理者権限は付与されません。必ずパスワードを設定してください。

その場合は、「キャンセル」をクリックしてログオン画面を終了してから、サーバの「プロパティ」の「ログイン」タブで、ログオンの設定を再度行います。ServerView の管理者ユーザは、**Administrators** グループに属している必要があります。**Administrators** グループに属していないと、管理者ユーザは ServerView Operations Manager からシャットダウンや ASR 設定を行えません。

そのため、ServerView の管理者ユーザを **Administrators** グループに追加してください。

1. コントロール パネルを開き、「管理ツール」アイコンをダブルクリックします。
2. 「コンピュータの管理」アイコンをダブルクリックします。
「コンピュータの管理」画面が表示されます。
3. 左側のツリービューで、「ローカル ユーザーとグループ」→「グループ」の順に選択します。
4. 「操作」メニューをクリックし、「新しいグループ」を選択します。

5. 「グループ名」に「FUJITSU SVUSER」と入力し、「作成」をクリックします。新しいグループが作成されます。「閉じる」をクリックして、「新しいグループ」画面を閉じます。
6. 左側のツリービューで、「ローカル ユーザーとグループ」→「ユーザー」の順に選択します。
7. 「操作」メニューをクリックし、「新しいユーザー」を選択します。
8. 必要な項目を設定し、「作成」をクリックします。新しいユーザが作成されます。「閉じる」をクリックして、「新しいユーザー」画面を閉じます。
9. 追加したユーザを選択し、「操作」メニューをクリックして「プロパティ」を選択します。
10. 「所属するグループ」タブをクリックして、「追加」をクリックします。「グループの選択」画面が表示されます。
11. 「プロパティ」をクリックします。
12. 「今すぐ検索」をクリックします。
13. **Administrators**、**FUJITSU SVUSER** グループを選択し、「OK」をクリックします。複数選択するには、[Ctrl] キーを押しながら選択します。「グループの選択」画面が再び表示されます。
14. 「OK」をクリックします。表示は、ユーザの「プロパティ」画面に戻ります。「所属するグループ」に **Administrators** と **FUJITSU SVUSER** が追加されていることを確認し、「OK」をクリックします。
15. 「OK」をクリックします。「コンピュータの管理」画面を閉じます。

3.4.1.1 Server Core がインストールされている環境の場合

Server Core のローカルコンソール環境では、Microsoft 管理コンソール (MMC) の GUI ベースの管理ツールは使用できません。次のコマンドを実行し、グループと管理者ユーザを設定します。

1. 次のコマンドを実行し、FUJITSU SVUSER グループを作成します。

```
>net localgroup "FUJITSU SVUSER" /add
```

2. 管理者ユーザを作成して、パスワードを設定します。

```
>net user <user name> /add *
```

このコマンドを実行すると、パスワードの入力を求められます。

3. 新しく作成したユーザを、FUJITSU SVUSER および Administrators グループに追加します。

```
>net localgroup "FUJITSU SVUSER" /add <ユーザ名>
```

```
>net localgroup "Administrators" /add <ユーザ名>
```

作成したグループおよび管理者ユーザを参照または削除するには、次のコマンドを実行します。

グループを参照する場合：

```
>net localgroup "FUJITSU SVUSER"
```

管理者ユーザを参照する場合：

```
>net user <ユーザ名> /
```

グループを削除する場合：

```
>net localgroup "FUJITSU SVUSER" /delete
```

管理者ユーザを削除する場合：

```
>net user <ユーザ名> /delete
```

3.5 ServerView Update Agent のインストール

3.5.1 要件

- 監視対象サーバに ServerView Update Agent をインストールする前に、対応する ServerView エージェントをインストールする必要があります。ServerView Windows エージェントのインストール方法については、本章に記載されています。ServerView Linux エージェントのインストール方法については、『Installation ServerView Agents for Linux』をご覧ください。
- TFTP サーバを使って更新を実施する場合は、TFTP サーバとして動作するサーバ上に、ServerView Update Agent V4.80、または PXE モードの GlobalFlash Agent V4.71 がインストールされている必要があります。

3.5.2 インストール

ServerView Update Agent V4.80 以降は、サーバのオンライン更新が可能な場合のみインストールされます。つまり、ファームウェアを更新するためのオンラインツールが利用できます。旧バージョンのシステムでは、GlobalFlash Agent 4.71 が必要です。詳細は、ServerView Update Manager V4.71 までの関連マニュアルをご覧ください。

ServerView Suite DVD 1 の「Firmware」→「Agent-Win」→「SV-Update-Agent」にある *FTASetup.exe* を使って、インストールを開始します。

次の手順でインストールを開始します。

- ▶ *FTASetup.exe* をダブルクリックします。

- ▶ ライセンス条件を確認後、セキュリティ設定のパラメータを定義する必要があります。



図 23: セキュリティ設定

Security Settings

Account Check

サーバがアクセスされる場合に、アクセス権限がチェックされるかどうかを定義します。このオプションが有効にした場合、「User Group for Update」も指定する必要があります。

User Group for Update

ローカルユーザグループの名前です。このグループ内のすべてのユーザには、更新処理を行う権限が与えられます。ここで入力されたグループは、**Windows** 環境で利用可能でなければなりません。デフォルト値は「**GFUSER**」ユーザグループです。このグループを使用したい場合は、**Windows** 環境でグループを設定する必要があります。



更新インストールで、既存の設定値が初期値に設定されます。

3.5.3 コマンドラインインターフェースを使用したインストール

FTAsetup コマンドを使って、コマンドレベルで **Update Agent** をインストールできます。

```
FTAsetup -noaccountcheck {0|1}  
          [-flashusergroup <User_group>]
```

```
FTAsetup -GFAU
```

オプションには次の意味があります。

-noaccountcheck {0|1}

パスワード・プロンプトのオン (0) またはオフ (1) を切り替えます。

-flashusergroup <User_group>

パスワード・プロンプトが有効な場合、ローカルユーザグループの名前を指定するためにこのオプションを使用できます。このグループ内のすべてのユーザには、更新処理を行う権限が与えられます。このオプションが指定されていない場合、「GFUSER」がデフォルトで設定されます。

-GFAU

このオプションで、エージェントの更新インストールを開始します。このオプションを使用しない新規インストールと違って、すでに **Update Agent** に設定されているパラメータは保持されます。

3.6 アンインストール

この項では、**ServerView Windows** エージェントのアンインストール方法について説明します。

サーバの BIOS に保存された項目は、**ServerView Windows** エージェントをアンインストールしても元の状態に戻りません。設定を元の状態に戻してから、**ServerView Windows** エージェントをアンインストールしてください。

ServerView Windows エージェントをアンインストールする前に、以下のことを必ず行ってください。

- ソフトウェアウォッチドッグ、BOOT ウォッチドッグ、電源 ON/OFF 設定を無効にしてください。
- スレッシュホールドマネージャ／パフォーマンスマネージャで、しきい値監視／レポート作成を適用している場合は、サーバへの適用を解除してください。
- **ServerView Windows** エージェントのアンインストール時に、**ServerView Operations Manager** を使用して設定される設定値（電源スケジュールや ASR 設定など）は削除されます。設定を自動的に引き継ぐ機能は提供されていないため、アンインストールする前に設定内容を控えておき、アップデートインストール後に、再度設定を行なってください。

ServerView Windows エージェントをアンインストールするには、次の手順に従います。



ServerView Windows エージェントのアンインストール後に **Windows** を再起動する必要はありません。

3.6.1 Windows Server 2008

1. 管理者として、または管理者権限を持つユーザとしてログインします。
2. 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
3. 「コントロール パネル」を開き、「プログラム」→「プログラムと機能」の順にクリックします。
4. 「ServerView Agents」を選択し、「アンインストール」をクリックします。

ServerView Windows エージェントがアンインストールされます。

Server Core がインストールされている環境の場合

1. ServerView Suite DVD 1 を DVD-ROM ドライブにセットします。
2. ご使用の環境にあわせて、以下いずれかを実行します。

32bit 環境の場合

`[CD/DVDdrive]:\SVSSoftware\Software\ServerView\Windows\Agents\Windows_32\ServerViewAgents_Win_i386.exe`

画面の支持に従い、アンインストールを行なってください。

3.6.2 Windows Server 2003

1. 管理者として、または管理者権限を持つユーザとしてログインします。
2. 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
3. 「コントロール パネル」を開き、「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。
4. 「ServerView Agents」を選択し、「削除」をクリックします。

ServerView Windows エージェントがアンインストールされます。

索引

A

ADDLOCAL 69

ASR&R 18

B

BIOS

サーバ管理機能 17

設定 17

BIOS Runtime Logging 19

Boot Retry Counter 18

Boot Timeout - 「O/S Boot Timeout」
をご覧ください。

C

CAN bus

設定 19

CPU Status 19

D

Diagnostic System 18

H

Hardware Watchdog 18

I

INSTALLDIR 68

L

LCD パネル 30

M

Memory Scrubbing 19

Mylex

Windows 2003 60

N

Next Boot uses 19

O

O/S Boot Timeout 18

P

PCI エラー

ログファイルに保存 19

R

RAID の設定 60

REBOOT 68

RemoteView

エラー後の起動 18

次回ブート時の起動 19

S

Server Configuration Manager 22

サーバの設定 22

ServerView Configuration
Manager 26

サーバの設定 26

ServerView RAID Manager 16

ServerView System Monitor 16

ServerView Update Agent 75

ServerView エージェント
設定 48

ServerView オンライン診断 16

ServerView セキュリティコンセプ
ト 31, 36

Setup.exe 66, 71

コマンド構文 67

SETUP_LEVEL 68

SET 操作 31

SNMP エージェント 36

SNMP サービスの設定 37

T

Temperature Monitoring 19

U

UPS 設定 29

W

Windows 2003

Mylex 60

Windows スタートメニュー
サーバの設定 24

あ

アラーム設定 29
アラームハンドラ
設定 29

い

インストール
ServerView エージェント 43
監視対象サーバへのインストール 15

お

温度
監視を有効にする 19

か

環境変数 68

さ

サーバ
BIOS 設定 17
サーバ管理機能 17
設定 17, 20
ファームウェアの設定 17
サーバの自動再起動 - 「ASR&R」を
ご覧ください。
サーバファームウェアの設定 54

し

システムのシャットダウン 50
シングルビットエラー
排除 19

す

ストレージサブシステム 19
CAN bus の設定 19
グループ構成 19

せ

セキュリティ設定 52
設定
その他の設定 29

ファームウェア 17
セットアップウィザード
起動 44

そ

ソフトウェアウォッチドッグ 29

つ

通信バス - 「CAN bus」をご覧ください。

て

電源監視 29
電源投入 / 切断時刻設定の設定 29

と

トラップの転送 49

ふ

ファームウェア
設定 17
ブートウォッチドッグ 29
ブート試行回数 18
プロセッサ
有効 / 無効 19
プロセッサエラー
ログファイルに保存 19

め

メモリ
シングルビットエラーを排除 19
メモリエラー
ログファイルに保存 19
メモリステータス 19
メモリモジュール
不具合が発生したメモリモジュールの特定 19